

2017 SYLLABUS

# 教職課程

北海道情報大学

## 【 目次 】

教職概論.....	4
教育原理.....	5
教育心理学.....	6
教育心理学.....	7
教育制度論.....	8
教育社会学.....	9
教育課程論.....	10
商業科教育法Ⅰ.....	11
商業科教育法Ⅱ.....	12
数学科教育法Ⅰ.....	13
数学科教育法Ⅱ.....	14
数学科教育法Ⅲ.....	15
数学科教育法Ⅳ.....	16
情報科教育法Ⅰ.....	17
情報科教育法Ⅱ.....	18
道德教育の理論と実践.....	20
特別活動論.....	21
教育の方法と技術.....	22
生徒指導.....	23
進路指導.....	24
学校教育相談.....	25
教育実習Ⅰ.....	26
教育実習Ⅱ/教育実習Ⅲ.....	28
教職実践演習（中・高）.....	29
特別支援教育論.....	30
教育心理学.....	31
教育心理学.....	32
教育制度論.....	33
教育社会学.....	34
教育課程論.....	35
特別活動論.....	36
教育の方法と技術.....	37
生徒指導.....	38
進路指導.....	39
学校教育相談.....	40
商業科教育法Ⅰ.....	41
商業科教育法Ⅱ.....	42
数学科教育法Ⅰ.....	43
数学科教育法Ⅱ.....	44
数学科教育法Ⅲ.....	45
数学科教育法Ⅳ.....	46
情報科教育法Ⅰ.....	47
情報科教育法Ⅱ.....	48

道徳教育の理論と実践.....	49
教育実習 I .....	50
教育実習 II/教育実習 III.....	52
教育実習 II/教育実習 III.....	53
教職実践演習（中・高） .....	54

# 教職概論 Outline of the Educational Profession

担当教員	中村 正巳 (851 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP170
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	1・2 年	前期
先端経営学科		必修	1・2 年	前期
情報メディア学科		必修	1・2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	1・2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	1・2 年	前期
授業概要				
<p>「教育の結論は教師であります。・・・教育こそは人であります。」全人教育の提唱者、小原國芳が言うように教師の存在こそ教育の要と考えられる。時代は大きく変化し教育の諸問題は山積みの昨今、一等の人材が教育界に必要とされている。教職の意義や役割、その職務内容等の理解を深め、具体的な事例を通して様々な角度から教職観を見直し、求められる教師の資質能力と研修の課題を考える。教職を志望する学生に教職の魅力・適性を熟考させるとともに、最終的な進路選択への動機づけを図り、教職課程での持続的な努力の姿勢を喚起できるようにする。</p>				
授業の目的				
<p>教職の意義や役割、その職務内容の理解を深める。教職の魅力・適性を考え、最終的な進路選択の動機づけを図り、教職課程での持続的な努力の姿勢を喚起できるようにする。</p>				
授業計画				
1. 大学の教職課程とその学び方 1 2. 大学の教職課程とその学び方 2 3. 教職の概要 (VTR「高校教師の仕事」) 4. 教職の具体的理解 (映画「学校 II」の視聴) 5. 教職の発展的理解 (映画「学校 II」から学ぶ こ と) 6. 偉大な人の教職観・森信三から学ぶ 7. 教員の仕事と役割 1 授業・教材研究 8. 教員の仕事と役割 2 教科外活動 9. 教員の仕事と役割 3 生徒指導と道徳教育		10. 教員の仕事と役割 4 キャリア教育 11. 教員の仕事と役割 5 地位と身分 (服務規定) 12. 教員の仕事と役割 6 研修 13. 教員の資質と能力 14. 教職への進路 15. まとめ		
準備学習 (予習・復習)				
<p>授業計画を参考に、教科書の該当する部分や、関心のあるテーマについて予習しましょう。            授業後に配布資料や教科書を参考にノートを見直して復習しましょう。</p>				
成績評価方法				
<input type="checkbox"/> 小テスト ( ) % <input checked="" type="checkbox"/> レポート ( 50 % ) <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題 ( 30 % ) <input checked="" type="checkbox"/> その他 [授業感想コメント] ( 20 % )				
教科書	羽田、関川編 『現代教職論』 弘文堂			
参考書・Web サイト	大津、坂田編『はじめて学ぶ 教職の基礎』 協同出版 米山編著『教師論』 玉川大学出版部			
単位修得が望ましい科目	教育原理			
備考	<p>教科書の利用については、理解することを中心に考え、最初から最後まで通して読みど            のようなことが書いてあるかを把握してほしい。要点となる部分をアンダーラインした            り、ノートに書き写して、理解を深めてほしい。</p>			

# 教育原理 Principles of Education

担当教員	中村 正巳 (851 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP171
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	1・2 年	後期
先端経営学科		必修	1・2 年	後期
情報メディア学科		必修	1・2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	1・2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	1・2 年	後期
<b>授業概要</b>				
<p>教職に関する他の科目を履修するために必要な基礎・基本を「教育の本質や現代の教育現象」から学ぶ。主なテーマは3つある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育とは何か、人間形成はどのようにしたらよいかを考える。</li> <li>2 日本の教育の歴史の概要と現代の学校教育の現状を理解する。</li> <li>3 現代の教育問題への理解を深め、未来の教育のあり方を考え、その展望を考える。</li> </ol>				
<b>授業の目的</b>				
教育の本質を理解し、視聴覚教材を通して、現代の教育問題から未来の教育のあり方を考える。				
<b>授業計画</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 教育事例から考える</li> <li>2. 教育とは何か (3つの考え方)</li> <li>3. 教育思想</li> <li>4. 現代日本の教育目的1～教育基本法</li> <li>5. 現代日本の教育目的2～教育基本法</li> <li>6. 戦前の教育史～DVD「ゆとりか学問か」</li> <li>7. 戦後の教育史～DVD「学校教育の現状」</li> <li>8. 現代の教育改革の方向性</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 現代の教育現象 VTR「早期教育」から</li> <li>10. 教育課程と教育方法～学習指導要領の変遷</li> <li>11. 生徒指導と教育相談</li> <li>12. キャリア教育</li> <li>13. 教師の仕事</li> <li>14. 現代の教育問題を考える</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
<p>授業計画を参考に教科書の該当する部分や関心のあるテーマについて予習しましょう。 授業後に配布資料や教科書を参考に、ノートを見直して復習しましょう。</p>				
<b>成績評価方法</b>				
<p>■ レポート ( 60 %)   ■ 小テスト ( 10 %)   ■ 演習課題 ( 20 %) ■ その他 ( 授業感想コメント 20 %)</p>				
<b>教科書</b>	中田、松田編著『次世代の教育原理』 大学教育出版			
<b>参考書・Web サイト</b>	<p>「新中等教育原理」佐々木編著 福村出版 「学生のための教育学」西川、長瀬編著 ナカニシヤ出版 「教室の悪魔?見えないいじめを解決するために」山脇由貴子著 ポプラ社</p>			
<b>単位修得が望ましい科目</b>	教職概論			
<b>備考</b>	教科書の利用については、理解することを中心に考え、最初から最後まで読みどのようなことが書いてあるかを把握してほしい。要点となる部分をアンダーラインしたり、ノートに書き写して、理解を深めてほしい。			

# 教育心理学 Educational Psychology

担当教員	佐藤 公治(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	CTP172
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2年	夏期集中
先端経営学科		必修	2年	夏期集中
情報メディア学科		必修	2年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2年	夏期集中
授業概要				
この授業では、教職科目としての教育心理学に関する基本的な事項の習得と学校現場において学習者がどのように学習を進めているか、その特質について理解すること、そして授業者がどのような支援をすることが必要であるかを論じる。さらにこの授業の中では、近年学校現場での適切な対応が求められている特別な支援を必要としている児童・生徒の学習支援のあり方を彼らの学習特性と関連づけながら扱う。				
授業の目的				
この授業を通して学校現場における実践的問題は何であるか、その見通しをもつことと、教育的営為としてどのようなことを展開することが求められているのかを教育心理学の視点から理解することを目指す。				
授業計画				
1. 教育心理学の歴史：教育心理学の性格と課題 2. 学習と学力：学習観の変遷と教育改革、 3. 発達：その基本と新しい考え方 4. 学習：その基本と新しい考え方 5. 認知心理学による学習研究 6. 認知的動機づけ：新しい動機づけの理論 7. 認識の発達：ピアジェの発達・学習理論 8. 発達・学習と教育との連関：ヴィゴツキーの発達・教育理論		9. 記憶と問題解決の心理学 10. 算数・数学の教科学習 11. 理科の教科学習 12. 国語科の教科学習 13. 学習の協同体と文化的実践としての学習 14. 教室学習：対話と協同的学び 15. 特別な支援を必要としている児童・生徒の心身の発達及び学習の過程の特徴と指導について 16. 試験 授業は毎回テキストを使用して進める。小レポートの課題も数回（3回・予定）課す。試験結果と小レポートの内容を総合して成績評価とする。		
準備学習（予習・復習）				
各授業毎に事前学習（予習）と授業重要事項を確認して記入する学習シートを配布し、これらの記入作業を求める。				
成績評価方法				
■試験：80% ■平常点（予習・復習の達成度）：20%				
教科書	テキストを使って授業を進める。 書名：「学びと教育の世界—教育心理学の新しい展開—」 著者名：佐藤公治 発行所：あいり出版			
参考書・Web サイト	佐藤公治「認知心理学からみた読みの世界」（北大路書房） 佐藤公治「対話の中の学びと成長」（金子書房） 森敏明・秋田喜代美「教育心理学キーワード」（有斐閣）			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 教育心理学 Educational Psychology

担当教員	五浦 哲也 (858 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP172
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	後期
先端経営学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	後期
<b>授業概要</b>				
この授業では、教職科目としての教育心理学に関する歴史的な変遷等基礎的・基本的な知識・理解の習得・定着を目標とします。また、児童・生徒の心身の発達過程やパーソナリティに関する学修を踏まえた児童・生徒を理解できる力を身に付けます。さらに、学習理論や学習方法、教育評価を学修することで、授業に教育心理学的な観点を取り入れることができる能力を身に付けます。机上の学問ではなく、教育現場でいかに教育心理学を生かしていくことができるかという視点を重視し、教員を目指す学生の実践的な資質を高めることを目指します。				
<b>授業の目的</b>				
教員として教育現場において、教育心理学的側面から児童・生徒の理解および学習過程における基礎的・基本的かつ実践的な知識・理解を身に付け、根拠に基づいた教育実践ができるようになることを目標とする。				
<b>授業計画</b>				
1. 学校と教育心理学 教育心理学の領域、課題、役割、方法		9. 教育評価 方法、統計の基礎		
2. 発達の理論 発達の概念、発達段階、発達の諸理論		10. 不適応行動の理解 欲求と欲求不満、適応機制、不適切行動		
3. 乳幼児期の発達 身体、運動、認知、社会性の発達		11. 学校と教育相談 教育相談の考え方、不登校と教育相談		
4. 青年期の発達 青年期の意義、心理、行動		12. 心理療法 精神分析療法、行動療法、認知療法、クライエント中心療法		
5. 学習の理論 学習の概念、条件付け、記憶		13. 特別な支援を必要としている児童・生徒の理解 発達障害への支援 (LD、ADHD)		
6. 効果的な学習 動機づけ、学習指導法		14. 特別な支援を必要としている児童・生徒の理解 発達障害への支援 (自閉スペクトラム症)		
7. パーソナリティの理解 パーソナリティの形成、理論、理解		15. 心理検査 WISC、KABC、田中ビネー		
8. 知能と学力の理解 知能、知能測定の歴史、学力、知能と学力		16. 評価 (テスト)		
<b>準備学習 (予習・復習)</b>				
次の講義内容を教科書で確認する。 講義で学修した内容 (説明や配布資料) から重要なポイントをノートにまとめておく。				
<b>成績評価方法</b>				
■試験 : 70% □小テスト : % □レポート : % ■演習課題 : 30% □その他 [ ]				
教科書	「教職をめざす人のための教育心理学」 福村出版			
参考書・Web サイト	特になし			
単位修得が望ましい科目	特になし			
備考	授業計画で教科書に記載されていない内容は、資料を配布して講義を行います。			







# 教育課程論 School Curriculum Studies

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP275
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	前期
先端経営学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	前期
授業概要				
<p>学校に着任した校長がいの一番にすること、それは学校の教育課程表をしっかりと見ることである。教育課程は学校教育において最重要であり、それをどのように編成し展開するかは、学校経営の一丁目一番地と言われるほどである。我が国の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程に関する諸理論を概観するとともに、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、さらには現行の学習指導要領の主な特徴や次期学習指導要領の理念や改定内容を踏まえ、今後の新しい学校教育の展開とその課題を考察する。</p>				
授業の目的				
<p>①教育課程に関する基本的事項を理解する。②我が国の教育課程行政の仕組みを把握する。③学習指導要領の変遷と各年版の学習指導要領の主な特徴を把握する。④現行の学習指導要領の主な特徴を理解し、教育課程の効果的な展開を考える。⑤次期学習指導要領の理念や改定内容を把握し、今後の展開や課題を考察する。</p>				
授業計画				
1 ガイダンス 教育課程の意義		9 カリキュラム開発と学力向上策		
2 教育課程編成の思想と構造		10 国際学力調査の教育課程改革への影響		
3 近代・現代日本の教育課程の歩み		11 様々な教育課程の改革		
4 教育課程の編成と諸要因		12 次期学習指導要領の検討 (1) 理念・キーワード		
5 学習指導要領と教育課程編成の実際		13 次期学習指導要領の検討 (2) 改訂内容など		
6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連		14 教育課程の現代的課題		
7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連		15 講義のまとめ・総括テスト		
8 教育課程と評価				
準備学習 (予習・復習)				
<p>授業内容を振り返り、レジュメや配布資料等を参考にして、サブノートを作成していくことを勧めます。そのノートは、採用試験対策にとどまらず、教職に就いてからも時々読み返し、きっと実践を豊かにしてくれるでしょう。</p>				
成績評価方法				
<p>■総括テスト 25% ■小テスト 25% ■レポート・演習課題 25% ■その他[授業への参加態度や意欲]25% 詳細は講義で説明します。</p>				
教科書		<ul style="list-style-type: none"> <li>・古川治ほか編(2015)「教職をめざす人のための教育課程論」北大路書房.</li> <li>・毎時、レジュメ・資料を配布します。</li> </ul>		
参考書・Web サイト		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立教育政策研究所編(2016)「国研ラブラリー 資質・能力 [理論編]」東洋館出版社.</li> <li>・苫野一徳著(2014)「教育の力」講談社現代新書.</li> <li>・山田恵吾ほか著(2003)「第三版 学校教育とカリキュラム」文化書房博文社.</li> <li>・安彦忠彦著 (2014) 「『コンピテンシー・ベース』を超える授業づくり」図書文化社.</li> </ul>		
単位修得が望ましい科目				
備考		<p>免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育課程の意義及び編成の方法」に対応する。</p>		

# 商業科教育法 I Teaching Methods of School Subjects(Business Science) I

担当教員	阿部 諭(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP283
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	前期
先端経営学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	前期
授業概要				
<p>この講義は教職課程を履修している者のうち、教科「商業」の教育職員免許を取得し、将来商業科教員を目指すことを前提としている。</p> <p>教科「商業」の基礎的な科目、総合科目、四つの分野の科目構成、目指す能力や内容等について学習する。また、基礎科目、総合科目、四分野の科目から内容の一部をミニ模擬授業として実践する。さらに、新学習指導要領と教育基本法等との関係についても理解を深める。</p>				
授業の目的				
商業に関する教育内容を体系的に分類し、それぞれの学習分野について基礎的・基本的な知識と技術を習得する。				
授業計画				
1 回 ガイダンス、高等学校の現状、教職の専門性と教員の資質能力等(資料) 2 回 教育基本法と学校教育法及び教育振興基本計画等(資料) 3 回 新学習指導要領改訂の理解(P1-P10) 4 回 基礎科目(ビジネス基礎)の内容等の概観(P11-15) 5 回 基礎科目(ビジネス基礎)の指導の実践 6 回 マーケティング分野の科目構成と内容等の概観(P24-P36) 7 回 マーケティング分野の指導の実践 8 回 ビジネス経済分野の科目構成と内容等の概観(P37-P50)		9 回 ビジネス経済分野の指導の実践 10 回 会計分野の科目構成と内容等の概観(P51-P71) 11 回 会計分野の指導の実践 12 回 ビジネス情報分野の科目構成と内容等の概観(P72-P94) 13 回 ビジネス情報分野の指導の実践 14 回 総合科目の科目構成と内容等の概観(P16-P23) 15 回 総合科目(ビジネス実務)の指導の実践、課題レポート提出、まとめ  教育は崇高で、深い責任を持たなければならない。受講者はそのことを十分踏まえ、教員としての心構えを持って受講してください。		
準備学習(予習・復習)				
授業計画を参考に教科書の該当部分を読んで予習をしてください。 指導の実践では事前に提示した指導項目を指導できるよう十分予習をしてください。 講義後には授業ノート、配付資料等の見直し、指導実践後には自己評価等により復習をしてください。				
成績評価方法				
<input type="checkbox"/> 試験： % <input type="checkbox"/> 小テスト： % <input checked="" type="checkbox"/> レポート：40% <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題： 40% <input checked="" type="checkbox"/> その他[討論参加状況受講態度等(20%)]				
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説(商業編)」平成22年5月初版発行 実教出版			
参考書・Webサイト	適宜資料配付			
単位修得が望ましい科目				
備考				

## 商業科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Business Science) Ⅱ

担当教員	阿部 諭(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	CTP284
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2年	後期
先端経営学科		必修	2年	後期
情報メディア学科		必修	2年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2年	後期
授業概要				
<p>「商業科教育法Ⅰ」の上級編です。商業教育は「ビジネス」学習を通して、学習者の望ましい人間形成を目指し、産業経済社会の発展に有為な人材の育成を目的としている。このような趣旨を踏まえて、商業専門科目の内容とその指導法及び指導技術等を教育現場の課題や問題点を意識しながら、講義と演習（指導案の作成、模擬授業）により進める。</p>				
授業の目的				
<p>商業科教員として必要な知識・技術と指導内容、指導方法等の資質の向上を図り、時代に即した望ましい授業展開の在り方を研究する。</p>				
授業計画				
1回 ガイダンス、教育課程と学習指導(資料) 2回 年間指導計画の作成(P105-P106)(資料) 3回 授業計画の進め方と学習指導案(資料) 4回 学習指導案の作成と教材研究(1)基礎的分野<演習> 5回 学習指導案の作成と教材研究(2)マーケティング分野<演習> 6回 学習指導案の作成と教材研究(3)ビジネス経済分野<演習> 7回 学習指導案の作成と教材研究(4)会計分野<演習> 8回 学習指導案の作成と教材研究(5)ビジネス情報分野<演習> 9回 学習指導案の検討・評価と批評及び加筆修正<発表・演習> 10回 基礎的分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評		11回 マーケティング分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 12回 ビジネス経済分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 13回 会計分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 14回 ビジネス情報分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 15回 商業教育の課題と展望、教員の心得、課題レポート提出、まとめ  授業実践研究では、教員になったつもりとその自覚を持って臨んでほしい。		
準備学習(予習・復習)				
<p>授業計画を参考に教科書の該当部分を読んだり、事前に資料配付の各回に必要な基礎知識をWeb上などから収集し、予習してください。            模擬授業に向け授業の流れを予習してください。            講義後、授業ノート、配付資料や各自収集した資料を見直し、復習してください。            模擬授業後は、自己評価・観察評価などにより復習してください。</p>				
成績評価方法				
<input type="checkbox"/> 試験： % <input type="checkbox"/> 小テスト： % <input checked="" type="checkbox"/> レポート：30% <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題： 50% <input checked="" type="checkbox"/> その他[討論参加状況受講態度等(20%)]				
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説(商業編)」平成22年5月初版発行 実教出版			
参考書・Webサイト	適宜資料配付			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 数学科教育法 I Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) I

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP278
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	前期
先端経営学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	前期
授業概要				
<p>授業を受ける生徒達が「論理的な文章がかけること」を要求することは、学校にもよりますが、必要はないと思いません。しかし、数学を教える教員は、論理的な記述が出来る必要があります。これはなかなか難しいことです。例えば、「<math>1 + 1 = 3</math>」ならば「すべての実数 <math>x</math> に対し、<math>x^2 &lt; 0</math>」が成立する。この命題は正しいでしょうか、間違いでしょうか、判断できますか。さらに命題とは何でしょうか。</p> <p>何か数学的対象を「教える」場合、「定義」を理解することが必要です。定義は論理的な文章で記述されています。様々な数学的事実を明確にし、迷いのない形で「自分の数学」を構成する上での基礎作りを行いたいと思います。</p>				
授業の目的				
数学の言葉を理解し、迷いなく数学を教えられる基礎を作る。				
授業計画				
1 数学とは	9 中学校数学の目標と内容			
2 集合, 論理, 数学の言葉 導入	10 高等学校数学の目標と内容			
3 集合, 論理, 数学の言葉 基礎	11 教材研究 (四則演算)			
4 集合, 論理, 数学の言葉 応用	12 教材研究 (定数, 変数, 未知数, 関数)			
5 集合, 論理, 数学の言葉 演習	13 教材研究 (整数)			
6 数学の体力	14 教材研究 (複素数)			
7 数学記号の成り立ち	15 教材研究 (初等関数)			
8 小学校算数の目標と内容	16 定期試験			
準備学習 (予習・復習)				
簡単なレポート問題を課し、予習復習とする。				
成績評価方法				
■試験 : 55% ■小テスト・レポート・演習 : 45%				
教科書	とくに設定しない。			
参考書・Web サイト	石川剛郎 著「論理・集合・数学語」共立出版 宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版			
単位修得が望ましい科目				
備考				

## 数学科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) II

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP279
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	後期
先端経営学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	後期
授業概要				
<p>数学科教育法Ⅰで学んだことを基礎にして、高等学校の数学の授業を担当する実践的指導力を養成するため、授業方法や評価法、指導計画の作成や教育機器の活用法、学習指導案の作成について学び、演習（学習指導案の作成、模擬授業、グループ討議）を通して望ましい授業実践力を習得する。</p>				
授業の目的				
<p>数学指導法を理解するとともに、各科目の内容について学習指導案を作成、模擬授業を通して高等学校数学の授業実践力を養成する。</p>				
授業計画				
1 ガイダンス 2 数学授業の方法 3 授業評価、学習評価 4 学習指導計画 5 教育機器の活用法 6 学習指導案の作成 7 模擬授業の実施（中学校数学の「数と式」） 8 模擬授業の実施（中学校数学の「図形」） 9 模擬授業の実施（中学校数学の「関数、資料と活用」）		10 模擬授業の実施（「数学Ⅰ」） （数と式、2次関数、図形と計量、データ分析） 11 模擬授業の実施（「数学A」） （場合の数と確率、整数、図形の性質） 12 模擬授業の実施（「数学Ⅱ」） （いろいろな式、図形と方程式、指数・対数・三角関数、微積分） 13 模擬授業の実施（「数学B」） （確率分布、数列、ベクトル） 14 模擬授業の実施（「数学Ⅲ」） （平面曲線・複素数平面、極限、微分、積分） 15 まとめ・総括的テスト		
準備学習（予習・復習）				
<p>（予習）数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの教科書の例題と問題はすべて解けるように理解しておくこと。            （復習）講義で扱った単元の板書計画を作成すること。（作成の方法や様式は第1回目の講義にて指導します。）</p>				
成績評価方法				
<p>■ 総括的テスト 25 % ■ 模擬授業 25% ■ 演習課題・レポート（25%）その他[授業への参加態度や意欲]25%            詳細は授業で説明します。</p>				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ・資料を配布する</li> <li>高等学校数学科用教科用教科書「詳説 数学Ⅰ」「詳説 数学Ⅱ」「詳説 数学Ⅲ」「詳説 数学A」「詳説 数学B」啓林館</li> </ul>			
参考書・Web サイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校学習指導要領（文部科学省）平成21年9月，東山書房</li> <li>高等学校学習指導要領解説・数学編（文部科学省ホームページ）</li> </ul>			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 数学科教育法Ⅲ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) III

担当教員	林 雄一郎(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	CTP280
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	3年	前期
先端経営学科		必修	3年	前期
情報メディア学科		必修	3年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	3年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	3年	前期
授業概要				
<p>数学科教育法 III は、中学校数学科の目標・内容を踏まえて、教材研究や数学的活動について学び、もって実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の到達目標</li> </ul> <p>中学校数学に関する教材研究の実践的な知識の理解を通して、中学校の数学の教員に求められる基礎的、基本的な資質・能力の形成を目指す。</p>				
授業の目的				
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校数学の目標・学習内容、数学的活動について理解する</li> <li>中学校数学の内容に関する教材観を確立する</li> <li>指導計画の作成、教育機器に活用について理解する</li> <li>教材研究の実践的な知識を習得する</li> </ul>				
授業計画				
第1回：ガイダンス		第9回：教育機器の活用 (コンピュータを活用した授業)		
第2回：中学校数学の目標 (小学校算数との関連)		第10回：教材観の形成 (数と式)		
第3回：中学校数学の内容 (数と式)		第11回：教材観の形成 (平面図形、空間図形、合同、相似、円周角の定理)		
第4回：中学校数学の内容 (図形と計量)		第12回：教材観の形成 (三平方の定理)		
第5回：中学校数学の内容 (関数)		第13回：教材観の形成 (比例・反比例、1次関数)		
第6回：中学校数学の内容 (資料の活用)		第14回：教材観の形成 (2次関数)		
第7回：数学的活動 (問題解決の方法、数学的言語活動)		第15回：教材観の形成 (資料の活用)		
第8回：指導計画の作成 (指導案、学習指導計画)		第16回：定期試験		
準備学習 (予習・復習)				
レジュメを前もって配布し予習を促す				
成績評価方法				
<p>■試験： % □小テスト： % ■レポート： % □演習課題： %</p> <p>■その他[数学を指導するための基礎的な知識の理解の程度や実践的な指導力について、試験やレポートにより総合的に判定し評価する。]</p>				
教科書	・中学校数学1, 2, 3 (教育出版)			
参考書・Webサイト	・数学科教育法—中学校・高校、杉山ほか、学文社			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 数学科教育法Ⅳ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) Ⅳ

担当教員	林 雄一郎(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	CTP281
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	3年	後期
先端経営学科		必修	3年	後期
情報メディア学科		必修	3年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	3年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	3年	後期
授業概要				
<p>数学科教育法Ⅳは、数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで修得した数学教育についての知識理解や技能を踏まえ、コンピュータを活用した教材開発を行い、もって数学の教員に求められる基礎的、基本的な実践的指導力を育成することをねらいとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の到達目標</li> <li>コンピュータを活用した授業の考察を行うとともに、学習ソフトを用いて教科書の内容をもとにした教材開発を行い、実践的な指導力の形成を目指す。</li> </ul>				
授業の目的				
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学数学の学習における数学ソフトの活用について理解する</li> <li>いろいろな数学ソフトを活用する力量を習得する</li> <li>数学ソフトを用いた教材開発を行う</li> <li>数学ソフトを活用した授業を工夫する</li> </ul>				
授業計画				
第1回：ガイダンス 第2回：数学ソフトの研究（GRAPES） 第3回：数学ソフト GRAPES（関数教材） 第4回：数学ソフト GRAPES（幾何教材） 第5回：数学ソフト GRAPES（操作、演習） 第6回：数学ソフトを活用した授業（ソフト活用と指導案の作成） 第7回：教材の作成（教材の選定） 第8回：教材の作成（ソフト教材の作成） 第9回：教材の作成（ソフト教材の開発）		第10回：授業指導案の作成 第11回：数学ソフトを用いた模擬授業（授業、グループ別討論） 第12回：数学ソフトを用いた模擬授業（再授業、グループ別討論） 第13回：数学ソフトを用いた模擬授業（再々授業、グループ別討論） 第14回：数学ソフトを用いた模擬授業（研究授業、全体討論） 第15回：数学ソフトと数学の授業（レポート作成） 第16回：定期試験		
準備学習（予習・復習）				
レジュメを前もって配布し予習を促す				
成績評価方法				
■試験： % □小テスト： % ■レポート： % □演習課題： % ■その他[数学の各教材に対する指導観や指導方法について、試験・レポートにより総合的に判定し評価する。]				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校数学1、2、3 教育出版</li> <li>・関数グラフソフトGRAPESパーフェクトガイド、文英堂</li> </ul>			
参考書・Webサイト				
単位修得が望ましい科目				
備考				



# 情報科教育法 I Teaching Methods of School Subjects (Information Science) I

担当教員	山北 隆典 (139 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP276
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	前期
先端経営学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	前期
<b>授業概要</b>				
<p>高等学校の共通教科「情報」及び専門教科「情報」の授業を担当するために最低限必要な事項、すなわち、教科の目標、科目の編成、指導内容、それらの取扱い等について、学習指導要領解説情報編をもとに確認します。特に、共通教科「情報」は必修教科であるため、学習目標、科目編成、指導内容については情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて確認していきます。</p> <p>また、学習指導計画の作成を行う上で拠り所となる事項（学習目標、観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について、ICT 活用と関連付けて確認していきます。これらの知識は情報科教育法 II の履修につながるものです。</p>				
<b>授業の目的</b>				
<p>高等学校の共通教科「情報」及び専門教科「情報」について、わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科の目標、科目の編成、指導内容等を説明できるようになることを目指します。</p> <p>また、学習指導計画を作成する上で拠り所となる事項（学習目標、観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について ICT 活用と関連付けて説明できるようになることを目指します。</p>				
<b>授業計画</b>				
1. 情報化の進展と現行の学習指導要領 2. 教育の情報化とその現状 3. 共通教科「情報」の目標、科目編成 4. 「社会と情報」の内容 5. 「情報の科学」の内容 6. 指導計画の作成と内容の取り扱い 7. 専門教科「情報」の目標、科目編成 8. 専門教科「情報」・各科目の内容		9. 教育課程の編成と指導計画の作成 10. 学習目標と観点別学習状況の評価 11. 学習目標と ICT を活用した学習活動 12. 評価規準の設定と ICT を活用した評価方法 13. ICT を活用した実習中心の授業展開（検討） 14. ICT を活用した実習中心の授業展開（発表と考察） 15. 学校における ICT 環境の整備 16. 試験		
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
<p>授業計画を参考に教科書の該当部分を読んで予習してください（授業の際にも明示しますし、適宜、関連資料を提供します）。</p> <p>講義後に授業ノート、配付資料を見直し、復習してください。指示がある場合には提出資料の作成も行ってください。</p>				
<b>成績評価方法</b>				
■試験： 50%      ■小テスト： 25%      ■レポート：10%      □演習課題： % ■その他[ グループワーク：15% ]				
<b>教科書</b>	文部科学省：『高等学校学習指導要領解説 情報編 平成 22 年 5 月』開隆堂出版株式会社			
<b>参考書・Web サイト</b>	岡本敏雄ほか：『情報科教育法』丸善出版（2015） 本村猛能ほか：『改訂 情報科教育法』学術図書出版社（2010） 久野靖、辰巳丈夫：『情報科教育法（改訂 2 版）』株式会社オーム社（2009）			
<b>単位修得が望ましい科目</b>	情報系，メディア系基礎科目			
<b>備考</b>	<p>専門教科「情報」においては、本学における専門教科の内容と強く関連する項目が多くあります。受講者はすでにそれらの内容については概ね理解できているものとして、本講では詳細に取扱いません。理解できていない、もしくはこれまでに学習していない場合には、その内容を独学しながら受講する覚悟が求められます。</p>			

## 情報科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects (Information Science) II

担当教員	山北 隆典 (139 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP277
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	後期
先端経営学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	後期
授業概要				
<p>情報科教育法Ⅰで学んだ内容をもとに、共通教科「情報」の授業を対象とし、実習中心の指導を行うための指導案の作成方法と授業の進め方を体験的に学習します。授業ではグループで作成した「本時の指導案」を題材に、指導案作りのポイントを確認します。さらに、指導案に基づいた模擬授業を体験し、授業を進める上でのポイントについても確認します。なお、教材作りや指導案の作成、模擬授業の準備は、授業以外の時間にも行うことになるでしょう。これは、他の科目における予習・復習に相当します。</p>				
授業の目的				
<p>実習中心の実践的な授業に関する指導計画を立案するための基本的な考え方、配慮すべき事項を説明できるようになることを目指します。</p> <p>教科目標の達成に向けた授業を展開するために指導方法を工夫し、実践していくために求められるスキルや態度を説明できるようになることを目指します。</p>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習指導計画の作成（実習中心の授業展開）</li> <li>2. 実習教材研究（情報のデジタル化・データの圧縮）</li> <li>3. 教材化検討・本時指導案作成（情報のデジタル化・データの圧縮）</li> <li>4. 本時指導案の発表と検討（情報のデジタル化・データの圧縮）</li> <li>5. 実習教材研究（ネットワーク・セキュリティ）</li> <li>6. 教材化検討・本時指導案作成（ネットワーク・セキュリティ）</li> <li>7. 本時指導案の発表と検討（ネットワーク・セキュリティ）</li> <li>8. 実習教材研究（問題解決・アルゴリズム）</li> <li>9. 教材化検討・本時指導案作成（問題解決・アルゴリズム）</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>10. 本時指導案の発表と検討（問題解決・アルゴリズム）</li> <li>11. 本時指導案の改善</li> <li>12. 模擬授業準備</li> <li>13. 模擬授業（A グループ）と検討会</li> <li>14. 模擬授業（B グループ）と検討会</li> <li>15. 総合演習とまとめ</li> </ol> <p>演習中心で進めるため、受講者数によっては授業計画を大きく変更する可能性があります。</p>		
準備学習（予習・復習）				
<p>教材作りや指導案の作成、模擬授業の準備は、授業以外の時間にも行うことになるでしょう。各受講者が報告や発表を念頭において、主体的に調査し、整理し、作成し、準備を整えてください。こうした作業が、他の科目における予習・復習に相当します。</p>				
成績評価方法				
<p>□試験：           %   □小テスト：       %   ■レポート：   15%   ■演習課題： 35%</p> <p>■その他[ 指導案：20% 模擬授業：30% ]</p>				
教科書	<p>1) 文部科学省：『高等学校学習指導要領解説 情報編 平成 22 年 5 月』開隆堂出版株式会社 （情報科教育法Ⅰと同じ教科書です。）</p> <p>2) 山極隆監修，岡本敏雄ほか；最新情報の科学 新訂版 実教出版（7 実教 情科 307）</p>			
参考書・Web サイト	<p>岡本敏雄ほか：『情報科教育法』丸善出版（2015）</p> <p>本村猛能ほか：『改訂 情報科教育法』学術図書出版社（2010）</p> <p>久野靖，辰巳丈夫：『情報科教育法（改訂 2 版）』株式会社オーム社（2009）</p>			
単位修得が望ましい科目	<p>情報科教育法Ⅰ</p> <p>（わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科「情報」の目標、科目の編成、指導内容等を説明できること、学習指導要領の内容を理解していること、学習指導計画を作成する上で拠り所となる事項について ICT 活用と関連付けて説明できることが受講の前提となります。）</p>			

<b>備考</b>	単なる知識伝達の授業ではありません。グループワークが中心となりますので、授業への積極的な参加態度が求められます。
-----------	--

# 道徳教育の理論と実践

担当教員	日下部 憲一(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	CTP285
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2年	前期
先端経営学科		必修	2年	前期
情報メディア学科		必修	2年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2年	前期
授業概要				
<p>道徳教育とは、人間が本来、人間としてよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動であり、学校教育の中核となるものである。</p> <p>そこで、学校における道徳教育の実際について学習するとともに、道徳教育の要である道徳の時間（平成31年度からは道徳科）の指導を通して、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」その在り方について学習する。</p>				
授業の目的				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳教育にかかわる歴史的な背景と現状及び道徳教育の実際、様々な課題等について理解することができる。</li> <li>2 道徳の時間の指導において、ねらいに迫り、心に響く道徳授業の在り方について研究を深め、創意工夫を生かした学習指導案を作成することができる。</li> <li>3 魅力的な道徳教材の開発と発掘に努めるとともに、その効果的な活用について研究を深めることができる。</li> </ol>				
授業計画				
第1回：ガイダンス・道徳教育の現状と課題（子供を取り巻く現状等） 第2回：道徳教育の理論（本質、世界の道徳教育等）及び道徳教育の歴史（戦前と戦後） 第3回：学習指導要領における道徳の目標と内容及び「私たちの道徳（心のノートの改称）」 第4回：道徳教育の実際1（道徳の指導計画と道徳の時間の指導及び学習指導案の内容） 第5回：道徳教育の実際2（学習指導の多様な展開） 第6回：道徳教育の実際3（教育活動全体を通じて行う指導と家庭や地域社会との連携） 第7回：道徳授業の実際1（読み物資料と模擬授業「お母さんの請求書」） 第8回：道徳授業の実際2（読み物資料と模擬授業「バスと赤ちゃん」）		第9回：学習指導案の研究と作成1（読み物資料による研究） 第10回：学習指導案の研究と作成2（読み物資料による研究結果から指導案作成） 第11回：学習指導案の研究と作成3（視聴覚資料による研究） 第12回：学習指導案の研究と作成4（視聴覚資料による研究結果から指導案作成） 第13回：学習指導案の研究と作成5（新聞資料による研究） 第14回：学習指導案の研究と作成6（新聞資料による研究結果から指導案作成） 第15回：道徳教育のまとめと展望（学習指導案の研究発表） 第16回：試験		
準備学習（予習・復習）				
<p>日頃から新聞、書籍、身近な出来事等に関心を持つとともに、授業計画を参考に教科書の該当部分を読んで予習する。さらに、講義後にワークシートや配付資料を見直し復習する。毎回1時間程度の予習復習を行い常に課題意識をもち授業に臨む。さらに、授業後適宜出す課題レポートは次週に必ず提出する。</p> <p>課題レポートについてまとめ、指定された期日に提出する。</p>				
成績評価方法				
<p>■試験：50% ■レポート：50%</p> <p>■その他 課題レポートや受講態度などの平常の学習意欲及び試験等により総合的に評価する。</p>				
教科書	文部科学省 中学校学習指導要領解説・道徳編（日本文教出版 139円）			
参考書・Webサイト	必要に応じてワークシートや資料を配付する。その都度指示する。			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 特別活動論 Study of Special Activities

担当教員	真鍋 孝徳(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング		
		2単位	講義	CTP286		
開講学科		種別	配当年次	開講時期		
システム情報学科		必修	2年	前期		
先端経営学科		必修	2年	前期		
情報メディア学科		必修	2年	前期		
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2年	前期		
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2年	前期		
授業概要						
<p>学校の教育課程は大きく分けると、授業を中心とした教科指導と授業以外の諸活動を含んだ教科外活動に区別されます。この中の教科外活動が「特別活動」に相当します。学校教育には知識や技術等を習得していく教科学習だけでなく、自主的な諸活動を通して、子どもの中に自律的で協同的な生活態度を形成していく教科外活動、すなわち特別活動が必要です。</p> <p>高等学校の教育課程の一領域である特別活動は、教育が目指す「人格の完成」と深くかかわっています。学校が「人間としての調和のとれた育成」に力点をおくならば、教科などの教育活動だけでなく、特別活動の働きが不可欠となります。</p> <p>歴史的には、教科外活動は戦前から行われていました。戦後、この教科外活動が「特別活動」として、教育課程に位置づけられていきます。</p> <p>高等学校における特別活動の歩みは、「自由研究」（1947年）、「特別教育活動」（1951年）、「各教科以外の教育活動」（1970年）、「特別活動」（1978年）というように、名称が変遷してきており、同時にその内容も変化してきました。現在の高等学校での特別活動の内容は、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事から構成されています。</p> <p>本科目は特別活動（高等学校）の歴史や意義、目標ならびに内容を理解し、指導原理等、三領域の内容と指導、特別活動の評価等について学んでいきます。</p>						
授業の目的						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動の意義と目標(高等学校)を理解する。</li> <li>2. 特別活動の各内容ごとの特質と指導原理を学ぶ。</li> <li>3. ホームルーム活動の機能と役割を把握する。</li> </ol>						
授業計画						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動を展開する学校の現状</li> <li>2. 「学校の荒れ三段階」に対する生徒会活動と部活動</li> <li>3. 入学式から始めるHR活動「高1スタートアップ・ガイダンスカリキュラム」</li> <li>4. 生徒の荒れに対応する「人生のモデル教材」～ワーキング・プア、女性の貧困～</li> <li>5. 学校祭と生徒会活動</li> <li>6. 特別活動を実践する教師の力量「反省的実践家」理論</li> <li>7. 生徒の心をとらえるカウンセリング理論と演習</li> <li>8. 心を育てるHR活動 ①「サイコエデュケーション」</li> </ol> </td> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 心を育てるHR活動 ②「構成的グループエンカウンター（SGE）」</li> <li>10. HR活動の実践に役立つ理論①「発達理論」</li> <li>11. HR活動の実践の役立つ理論②「キャリア教育」</li> <li>12. HR活動で取り組む課題①「いじめ」</li> <li>13. HR活動で取り組む課題②「命の授業」</li> <li>14. 特別活動における部活動の役割</li> <li>15. 反省的実践家の実践的見識「幸福学」</li> <li>16. 試験</li> </ol> </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動を展開する学校の現状</li> <li>2. 「学校の荒れ三段階」に対する生徒会活動と部活動</li> <li>3. 入学式から始めるHR活動「高1スタートアップ・ガイダンスカリキュラム」</li> <li>4. 生徒の荒れに対応する「人生のモデル教材」～ワーキング・プア、女性の貧困～</li> <li>5. 学校祭と生徒会活動</li> <li>6. 特別活動を実践する教師の力量「反省的実践家」理論</li> <li>7. 生徒の心をとらえるカウンセリング理論と演習</li> <li>8. 心を育てるHR活動 ①「サイコエデュケーション」</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 心を育てるHR活動 ②「構成的グループエンカウンター（SGE）」</li> <li>10. HR活動の実践に役立つ理論①「発達理論」</li> <li>11. HR活動の実践の役立つ理論②「キャリア教育」</li> <li>12. HR活動で取り組む課題①「いじめ」</li> <li>13. HR活動で取り組む課題②「命の授業」</li> <li>14. 特別活動における部活動の役割</li> <li>15. 反省的実践家の実践的見識「幸福学」</li> <li>16. 試験</li> </ol>
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動を展開する学校の現状</li> <li>2. 「学校の荒れ三段階」に対する生徒会活動と部活動</li> <li>3. 入学式から始めるHR活動「高1スタートアップ・ガイダンスカリキュラム」</li> <li>4. 生徒の荒れに対応する「人生のモデル教材」～ワーキング・プア、女性の貧困～</li> <li>5. 学校祭と生徒会活動</li> <li>6. 特別活動を実践する教師の力量「反省的実践家」理論</li> <li>7. 生徒の心をとらえるカウンセリング理論と演習</li> <li>8. 心を育てるHR活動 ①「サイコエデュケーション」</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 心を育てるHR活動 ②「構成的グループエンカウンター（SGE）」</li> <li>10. HR活動の実践に役立つ理論①「発達理論」</li> <li>11. HR活動の実践の役立つ理論②「キャリア教育」</li> <li>12. HR活動で取り組む課題①「いじめ」</li> <li>13. HR活動で取り組む課題②「命の授業」</li> <li>14. 特別活動における部活動の役割</li> <li>15. 反省的実践家の実践的見識「幸福学」</li> <li>16. 試験</li> </ol>					
準備学習（予習・復習）						
講義後に授業ノート、配布資料を見直し復習してください。						
成績評価方法						
<p>■試験：60％ □小テスト：％ ■レポート：20％ ■演習課題：20％</p> <p>□その他[ ]</p>						
教科書		特に指定しない。レジュメと資料を配布する。				
参考書・Web サイト		中谷 彪・臼井 英治・大津 尚志 編 「特別活動のフロンティア」 晃洋書房 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 東山書房				
単位修得が望ましい科目		なし				
備考		なし				

# 教育の方法と技術 Theory and Practice of Moral Education

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP287
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	後期
先端経営学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	後期
授業概要				
<p>教育を社会的なマクロな視点からみると、人類が蓄積してきた文化を次の世代に伝える作用といえるし、個人的なミクロな視点からみると、誕生した子どもを親から自立・自律した「人」へと導く働きかけと考えられる。学校の教育活動では、教授者、学習者、それに両者の間に介在する文化的な内容があり、それらの要件を枠付ける物的な環境条件（施設、設備など）や時間が関与している。その相互作用の過程で、より効果的な手段・方法を見出そうとするのが「教育の方法と技術」である。</p>				
授業の目的				
<p>学校教育に対する社会からのニーズの増加と複雑化により、教師が担うべきだとされる役割や責任は、ますます拡大する傾向にある。しかし、教師が「教育専門職（プロフェッション）」としてエネルギーと時間を最優先で傾注しなければならぬ仕事は「授業」であることはいままでのない。本科目では、これまでの教育方法・技術と授業に関する基本的な概念を整理し、教育方法と教授学の歴史、近代および現代の教授理論、カリキュラム（教育課程を含む）とその開発、授業における指導技術と学習意欲の向上・評価、教育メディアの発展と活用、教育における評価と改善などについての有意義な考え方や方法・スキルなどを学び、教師の授業実践の基盤づくりに資するものとした。</p>				
授業計画				
1. 教育の方法・技術と授業の諸概念 2. 教授学と教授法の歴史 3. 新教育運動の教授理論 4. 教育の現代化と教授理論 5. カリキュラムの概念と開発 6. カリキュラムの構造と類型 7. 教育課程と学習指導要領 8. 教師の役割・責任と授業における指導技術		9. 学習意欲を引き出す授業方法・技術と学習評価 10. 教育メディアと教育メディア活用の理論 11. 各種教育メディアと ICT 活用の進展 12. e ラーニングの進展と教授・学習理論 13. 新しい教材・コンテンツ開発と教育・学習環境 14. 教授組織のあり方と学習組織の形態 15. 教育評価の考え方や方法・技術		
準備学習（予習・復習）				
<p>授業内容を振り返り、教科書や配布資料等を参考にして、サブノートを作成していくことを勧めます。そのノートは、採用試験対策にとどまらず、教職に就いてからも時々読み返しながら、きっと実践を豊かにしてくれるでしょう。</p>				
成績評価方法				
<p>■総括テスト 25% ■小テスト 25% ■レポート・演習課題 25% ■その他[授業への参加態度や意欲]25%            詳細は講義で説明します。</p>				
教科書	書名：改訂版 教育の方法と技術（教職課程シリーズ）、平沢 茂 編著 出版社：（株）図書文化社			
参考書・Web サイト	適宜、授業の中で紹介します。			
単位修得が望ましい科目				
備考	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育の方法及び技術」に対応する。			

# 生徒指導 Student Guidance

担当教員	五浦 哲也 (858 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング																
		2 単位	講義	CTP288																
開講学科		種別	配当年次	開講時期																
システム情報学科		必修	1・2 年	前期																
先端経営学科		必修	1・2 年	前期																
情報メディア学科		必修	1・2 年	前期																
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	1・2 年	前期																
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	1・2 年	前期																
授業概要																				
<p>いじめ、不登校、自殺、暴力行為、飲酒、喫煙、薬物乱用、性非行、万引き（窃盗）、学級崩壊、授業不成立等、生徒を取り巻く生徒指導に関わる問題は、教育現場だけではなく大きな社会問題とも言えます。教育現場では、生徒指導の意義と重要性を理解し、問題行動に対し、組織的に迅速かつ効果的な対応ができるだけでなく、生徒指導の機能を生かした学級経営や授業ができる資質と実践力が求められています。</p> <p>文部科学省の『生徒指導提要』では「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」が生徒指導であると述べています。そのためには、生徒の発達段階や実態、特徴、取り巻く環境等の背景などから多角的に理解し、将来を見通し計画的・組織的な指導を行うことが必要です。また、教員は教育公務員として法令に遵守し適切に生徒指導を行うことが重要です。さらに、生徒指導は特定の問題行動を起こした児童生徒に対処的に行うのではなく、全ての児童生徒を対象として、予防・開発的な視点を持ち実態に即した系統的・発展的な指導も望まれています。</p> <p>本科目ではこうした点を踏まえながら、教育現場における基礎的・基本的な生徒指導の在り方や考え方の基本を理解し、様々な生徒指導問題の実態と対応について自ら考え、判断し、表現することで学修を深めていきます。</p>																				
授業の目的																				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の意義と教育における重要性について理解する。</li> <li>2. 様々な問題行動の実態と生徒指導における対応について考え方、判断力、表現力を身に付ける。</li> </ol>																				
授業計画																				
<table border="0"> <tr> <td>1. 第1章 生徒指導の基本</td> <td>9. 第9章 生徒指導と授業</td> </tr> <tr> <td>2. 第2章 生徒指導体制</td> <td>10. 第10章 子どもの問題行動</td> </tr> <tr> <td>3. 第3章 生徒指導と教師の姿</td> <td>11. 第11章 いじめ</td> </tr> <tr> <td>4. 第4章 生徒指導と法制度</td> <td>12. 第12章 少年非行</td> </tr> <tr> <td>5. 第5章 生徒指導と教育相談</td> <td>13. 第13章 子どもに自立を促す生徒指導の手法</td> </tr> <tr> <td>6. 第6章 不登校</td> <td>14. 第14章 生徒指導とキャリア教育</td> </tr> <tr> <td>7. 第7章 生徒指導と学級経営</td> <td>15. 第15章 危機管理</td> </tr> <tr> <td>8. 第8章 支援が必要な子ども</td> <td>16. 試験</td> </tr> </table>					1. 第1章 生徒指導の基本	9. 第9章 生徒指導と授業	2. 第2章 生徒指導体制	10. 第10章 子どもの問題行動	3. 第3章 生徒指導と教師の姿	11. 第11章 いじめ	4. 第4章 生徒指導と法制度	12. 第12章 少年非行	5. 第5章 生徒指導と教育相談	13. 第13章 子どもに自立を促す生徒指導の手法	6. 第6章 不登校	14. 第14章 生徒指導とキャリア教育	7. 第7章 生徒指導と学級経営	15. 第15章 危機管理	8. 第8章 支援が必要な子ども	16. 試験
1. 第1章 生徒指導の基本	9. 第9章 生徒指導と授業																			
2. 第2章 生徒指導体制	10. 第10章 子どもの問題行動																			
3. 第3章 生徒指導と教師の姿	11. 第11章 いじめ																			
4. 第4章 生徒指導と法制度	12. 第12章 少年非行																			
5. 第5章 生徒指導と教育相談	13. 第13章 子どもに自立を促す生徒指導の手法																			
6. 第6章 不登校	14. 第14章 生徒指導とキャリア教育																			
7. 第7章 生徒指導と学級経営	15. 第15章 危機管理																			
8. 第8章 支援が必要な子ども	16. 試験																			
準備学習（予習・復習）																				
<p>授業計画を参考に参考書を読んでくる。 授業後に配布資料や教科書を読んで復習する。</p>																				
成績評価方法																				
<p>■試験（50%） □小テスト □レポート ■演習課題（50%） □その他[授業への参加意欲] 定期テスト、演習課題の詳細は、講義で触れます。</p>																				
教科書	「入門 生徒指導「生徒指導提要」から「いじめ防止対策推進法」まで」 片山紀子著 学事出版																			
参考書・Web サイト	文部科学省「生徒指導提要」教育図書 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm</a>																			
単位修得が望ましい科目	なし																			
備考	なし																			

## 進路指導 Career Guidance

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP289
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	後期
先端経営学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	後期
授業概要				
<p>本授業では進路指導・キャリア教育について、歴史的政策的な経緯を踏まえ、基本的な事項を解説し、学校教育のなかで進路指導・キャリア教育がどのような役割を担い、どのような意義を持つ教育活動であるのか、さらにこれからどのような教育実践が求められていくのかについて学ぶ。授業の方法は、講義・演習・発表等、履修者の参加を重視した方法で行う。</p>				
授業の目的				
<p>中学校・高等学校における進路指導・キャリア教育の政策的な経緯とその批判、現状について概略的に理解する。さらに、その実践的課題は何であるか等の見通しをもち、将来の実践者としての進路指導・キャリア教育の指導への意欲を高めるとともに、教職の指導基盤をつくる。</p>				
授業計画				
1. ガイダンス 2. キャリア教育の提唱とその推進施策 3. キャリア教育とは 4. キャリア教育の実践 5. キャリア教育と学習意欲の向上 6. インターンシップについて 7. 担任が実践するキャリア教育 8. キャリアカウンセリングと測定の方法		9. キャリア教育の実態から 10. キャリア教育の課題（弱み） 11. 進路指導の歴史的展開(1)日本への導入以前 12. 進路指導の歴史的展開(2)戦後日本から 13. 高等学校における進路指導の実際（就職指導） 14. 高等学校における進路指導の実際（進学指導） 15. まとめ・総括的テスト		
準備学習（予習・復習）				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の指定箇所を一度、読んでくること。（第1回目の授業には「はじめに」（pp. 1 - 11）を読んできてください。）</li> <li>・授業後に教科書や配布資料を参考に、プリント（ノート）を見直して復習しましょう。</li> </ul>				
成績評価方法				
<p>■ 総括的テスト 25 % ■ 小テスト 25 % ■ 演習課題・レポート (25%) その他[授業への参加態度や意欲]25%            詳細は授業で説明します。</p>				
教科書		藤田晃之（2014）『キャリア教育基礎論—正しい理解と実践のために—』実業之日本社。		
参考書・Web サイト		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省（2011）『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版。</li> <li>・文部科学省（2012）『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版。</li> <li>・児美川孝一郎（2013）『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書。</li> <li>・本田由紀（2009）『教育の職業的意義?若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書。</li> </ul> これらの他にも適宜紹介する。		
単位修得が望ましい科目		なし		
備考		免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」における「進路指導の理論及び方法」に対応する。		



# 学校教育相談 School Counseling

担当教員	中村 正巳 (851 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	CTP290
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	1・2 年	前期
先端経営学科		必修	1・2 年	前期
情報メディア学科		必修	1・2 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	1・2 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	1・2 年	前期
授業概要				
<p>現在、不登校、いじめ、非行等、学校は多くの教育問題を抱えている。その渦中にある児童生徒はもちろん教師や保護者も戸惑い悩んでいる。児童生徒が学校生活で成長する過程で遭遇する諸問題には生徒指導はもちろんだが、教育相談・カウンセリングの果たす役割は非常に重要である。学校には心理臨床の専門家であるスクールカウンセラーも派遣されつつあるが、日常の教育活動の中での教師による教育相談・カウンセリング的対応は最も効果的である。</p> <p>本科目では児童生徒の話をいつでも聴ける知識や技術の基礎知識を学ぶ。教育カウンセリングの視点からピアヘルピング等の実践的な内容も学ぶ。教職を目指す皆さんが、教育相談・カウンセリング(ピアヘルピング)について十分理解でき、教師として必要な学校教育相談の基礎理論を自覚的に考察できるようにする。</p>				
授業の目的				
<p>教職を目指す皆さんが、学校という視点から、教育相談・カウンセリングについて十分理解でき、教師として必要な学校教育相談の基礎理論を自覚的に考察できるようにする。</p>				
授業計画				
1 ガイダンス～学校教育と教育相談 2 構成的グループエンカウンター体験 3 カウンセリングの定義・種類・関係領域 4 カウンセリングの理論 1 5 カウンセリングの理論 2 6 カウンセリング(ピアヘルピング)のプロセス・カウンセラー(ピアヘルパー)のパーソナリティ 7 カウンセリングスキル 1 (受容・共感・繰り返し) 8 カウンセリングスキル 2 (明確化・支持) 9 カウンセリングスキル 3 (質問・総合演習)		10 カウンセリングの非言語的スキル 11 諸問題への対処法とスキルの上達法 12 青年期の課題と留意点 1～学業・進路 13 青年期の課題と留意点 2～友人・グループ 14 青年期の課題と留意点 3～関係修復・心理 15 まとめ		
準備学習(予習・復習)				
<p>授業計画を参考に、教科書の該当する部分や、関心のあるテーマについて予習しましょう。            授業後に配布資料や教科書を参考にノートを見直して復習し、小テストに備えましょう。</p>				
成績評価方法				
<input type="checkbox"/> 試験： % <input checked="" type="checkbox"/> 小テスト：40 % <input checked="" type="checkbox"/> レポート： 40 % <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題： 10 % <input checked="" type="checkbox"/> その他[授業感想コメント] 10 %				
教科書	日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社			
参考書・Web サイト	大友、瀬尾、中村編著『教育カウンセリングとイノベーション』三恵社 秋山、谷川、柳澤編著『相談援助演習』弘文堂			
単位修得が望ましい科目	生徒指導、特別支援教育			
備考				

# 教育実習 I Practice Teaching I

担当教員	中村 正巳 (851 研究室), 五浦 哲也 (858 研究室), 椿 達 (854 研究室)		単位数	授業形態	ナンバリング
			1 単位	実習	CTP391
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	4 年	冬期集中	
先端経営学科		必修	4 年	冬期集中	
情報メディア学科		必修	4 年	冬期集中	
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	4 年	冬期集中	
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	4 年	冬期集中	
授業概要					
<p>「教育実習」は、教師を志望する学生が、講義などを通して習得した理論や技能を学校教育の実際場面へ適用し、実践的な体験をする学習活動です。大学の講義では得られない教育を行う諸能力を身に付けるために、実践を通して集中的に取り組む学習になります。</p> <p>高等学校の教員免許の取得希望者は2週間以上、中学校の教員免許の取得希望者は3週間以上、教育実習を行なうこととなります。「教育実習 I」では、そのための事前指導（事前学習）と事後指導（事後学習）を行います。</p> <p>教育実習のねらいは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何かについて、体験する。</li> <li>2. 大学で学んだ知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学では得られない実践的な教育技術を身に付ける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>「教育実習 I」事前指導（事前学習）では、所期のねらいを達成するように準備、訓練を行うための学習となります。「教育実習 I」事後指導（事後学習）では、「教育実習 II/教育実習 II・III」の終了後に、そこでの学習のまとめ及び教育についての見つけなおしを行い、その報告を行います。</p>					
授業の目的					
<p>事前指導：教育実習並びに学校教育活動に関する基礎的・基本的事項について理解を深め、教育実習に向けての心構え、課題意識を養う。</p> <p>事後指導：教育実習を振り返り、教育実践を通して学んだ教育活動についてその工夫・改善、向上のあり方に気付かせ、さらに、教育実践に対する自覚と意欲を強化する。</p>					
授業計画					
<p>「教育実習 I」を目的通りに達成するため、事前指導と事後指導により進めます。</p> <p>1. 事前指導（3年・4年に実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生は、4年生の実習報告会全てに必ず参加すること（3年の7月末、9月末、10月初めの予定）</li> <li>・以下の集中講義（2月予定）と模擬授業の実施（4月）</li> </ul> <p>&lt;集中講義を実施（3年の2月）&gt;</p> <p>第1回 1 教育実習の意義</p> <p>2 教員に求められる資質</p> <p>3 教育実習に臨むにあたっての心構え・マナー</p> <p>第2回 4 教育実習の内容（1） 授業実習</p> <p>第3回 5 教育実習の内容（2） 特別活動等の指導</p> <p>第4回 6 教育実習生の日</p> <p>7 事前準備</p> <p>8 教育実習を終えるにあたって</p> <p>&lt;4年の4月に実施&gt;</p> <p>第5回 9 模擬授業</p> <p>2. 事後指導（4年、教育実習 II /教育実習 II・III 終了後に実施）</p> <p>事後指導の内容は、以下の通りです。</p> <p>(1) 教育実習レポートの作成</p> <p>内容：教育実習で学んだこと、工夫したこと、反省したこと、あらためて教職について感じたこと、考えたこと等</p> <p>様式：A4版・3枚程度（40字・30行）</p> <p>最初に「平成〇〇年度 教育実習レポート」と表記、学籍番号・氏名を記入する。</p> <p>次に「教育実習校」と教育実習の期間を記すこと。</p> <p>提出：「教育実習 II/教育実習 II・III」終了後、2週間以内、教務課へ</p> <p>(2) 「教育実習 II/教育実習 II・III」における教育実習報告会にすべて出席し、いずれかに報告する。（7月、9月、10月を予定）</p> <p>（次年度教育実習参加予定者を含む）</p>					

第6回	10	模擬授業	
第7回	11	模擬授業	
<b>準備学習（予習・復習）</b>			
教育実習に向けて、教育実習報告会等に必ず出席し、教育実習への心構えや教材研究等、教育実習の予習をしましょう。教育実習後は実習日誌を参考にして、体験発表し、教職実践演習に向けて復習しましょう。			
<b>成績評価方法</b>			
□試験： % □小テスト： % ■レポート： % ■演習課題： % ■その他 [教育実習報告会での報告]			
<b>教科書</b>	テキスト：○『教育実習の手引』（第6版） ○『教育実習日誌』（第3版） 共に、北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編学術図書出版社		
<b>参考書・Web サイト</b>	「教育実習 64 の質問」寺崎、黒澤、別府監修 学文社		
<b>単位修得が望ましい科目</b>			
<b>備考</b>	関連科目：教育実習 II/教育実習 II・III に連動しています。 その他：事後指導は後期に行う場合があります。		

# 教育実習 II/教育実習 III Practice Teaching II

担当教員	中村 正巳 (851 研究室), 五浦 哲也 (858 研究室), 椿 達 (854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	実習	CTP392
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	4 年	集中
先端経営学科		必修	4 年	集中
情報メディア学科		必修	4 年	集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	4 年	集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	4 年	集中
<b>授業概要</b>				
<p>「教育実習 II」は、平素の専門分野の学習・研究活動及び高等学校の教科「情報」「商業」、中学校・高等学校の「数学」の学習を基に、実際に実習校において実践的な教育活動を体験します。「教育実習 I」と密接に関連した学習です。教育実習のねらいは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何か、体験的に体得する。</li> <li>2. 大学で得た知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学で得られない実践的な教育技術を身につける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>実習期間は、高校の教員免許の取得希望者の場合、2週間以上、中学校の教員免許の取得希望者の場合、3週間以上ですが、事前の学校訪問等があり、当該実習校との連携をとりながら準備をし、教育実習の実践を行います。事前の学校訪問の状況について、大学に報告しなければなりません。</p>				
<b>授業の目的</b>				
現実の学校環境における生徒たちとの直接的な接触を通して教育活動の体験を積み、将来教員となるための実践上の能力態度を養う。				
<b>授業計画</b>				
<p>当該実習校での実習期間中に、大学から指導、状況把握、挨拶等をかねて訪問します。できれば指定された「研究授業日」に訪問しますが、他の日になることもあります。</p> <p>具体的には、当該実習校での実習になりますので、そこの教職員の指導を受けることになります。教員としての立場に立ち、貴重な体験ができる機会です。</p> <p>“見習い先生”として、教師の専門性、学校の組織・運営、指導の在り方や工夫、生徒の生活の様子、心のふれあいの喜び等、終生忘れられない経験が出来ます。なかでも、職務に専念すること、教材研究の重要性、創意工夫の大切さなどを学びますが、これらのことは、どのような職業に就くにしても役立つことです。貴重な体験を得ることになります。</p>				
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
教育実習直前には、模擬授業等を活用して十分な準備をして本番に臨みましょう。実習終了後は実習報告会でその成果を発表しましょう。				
<b>成績評価方法</b>				
<p>□試験： % □小テスト： % ■レポート： % ■演習課題： %</p> <p>■その他 [ (教育実習日誌, 実習高等学校からの出席簿・評価表。「教育実習 I」と関連させ、総合的に評価します。 ) ]</p>				
教科書	<p>テキスト：○『教育実習の手引』（第6版） 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編 学術図書出版社</p> <p>○『教育実習日誌』（第3版） 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編 学術図書出版社</p>			
参考書・Web サイト				
単位修得が望ましい科目	教育実習 I			
備考				

# 教職実践演習（中・高） Practical Seminar for the Teaching Profession

担当教員	中村 正巳(851 研究室), 五浦 哲也(858 研究室), 椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	実習	CTP394
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	4 年	後期
先端経営学科		必修	4 年	後期
情報メディア学科		必修	4 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	4 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	4 年	後期
<b>授業概要</b>				
<p>1 本科目は、教員として必要な資質・能力の最終的な形成・修得と本人及び教員による確認を目的とするものであり、教職課程のいわば集大成とでもいうべき科目である。</p> <p>2 上記の目的を果たすために、本科目では、自らの、そして他の学生の教育実習での経験に対するとらえ返しと検討を行ない、それを踏まえた上で、教員の職務や責任、生徒理解・指導と学級経営について集団的に考察するとともに、学習指導にまつわる実践的指導力の向上の実現と今後の課題の析出に努めることとする</p> <p>3 授業展開について（模擬授業等で、教科に関する担当教員にも便宜、指導を仰ぐ場合がある）</p> <p>第1回-第6回：講義と演習（討論）（担当：中村，椿，五浦）</p> <p>第7回-第13回：グループ単位で模擬授業と検討会の運営をする。（担当 Aグループ：中村，Bグループ：椿，Cグループ：五浦）</p>				
<b>授業の目的</b>				
<p>教員として求められる資質能力（教員としての責任感や教育的愛情，社会性・対人関係能力，生徒理解・指導や学級経営にまつわる実践的指導力，学習指導にまつわる実践的指導力）のより一層の向上をはかり，教職に関する適性の獲得を目指す</p>				
<b>授業計画</b>				
第1回教員の職務（組織運営を含む）・責任に関する講義（全体） 第2回教員の職務（組織運営を含む）・責任に関する討論（全体） 第3回生徒理解・指導と学級経営に関する講義（全体） 第4回生徒理解・指導と学級経営に関する討論（全体） 第5回教科の指導に関する講義（全体） 第6回教科の指導に関する討論（全体） 第7回模擬授業の実演と検討会1（グループ別）		第8回模擬授業の実演と検討会2（グループ別） 第9回模擬授業の実演と検討会3（グループ別） 第10回 模擬授業の実演と検討会4（グループ別） 第11回 模擬授業の実演と検討会5（グループ別） 第12回 模擬授業の実演と検討会6（グループ別） 第13回 模擬授業の実演と検討会7（グループ別） 第14回 外部講師の講話 第15回 まとめ（グループ別）		
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
毎回の授業テーマごとに、教育実習実習日誌やレポートで、教育実習の体験を振り返りましょう。教育実習の研究授業等の指導案を見直し、模擬授業に備えましょう。				
<b>成績評価方法</b>				
□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： % ■その他 100%[討論への参加の状況，模擬授業の実演状況をもとに総合的に評価する]				
<b>教科書</b>				
<b>参考書・Web サイト</b>				
<b>単位修得が望ましい科目</b>				
<b>備考</b>				

# 特別支援教育論 Study of Special Needs Education

担当教員	五浦 哲也 (858 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング																											
		2 単位	講義	CTP195																											
開講学科		種別	配当年次	開講時期																											
システム情報学科		必修	1・2 年	前期・後期																											
先端経営学科		必修	1・2 年	前期・後期																											
情報メディア学科		必修	1・2 年	前期・後期																											
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	1・2 年	前期・後期																											
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	1・2 年	前期・後期																											
授業概要																															
<p>日本では 2007 年、「特殊教育」から「特別支援教育」へと転換されました。このことにより、従来の障害種別・程度別の特殊学校（特殊学級）等における場に応じた教育から、障害のある児童・生徒の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行うこととなりました。</p> <p>教育現場では、種々の障害の基本的な特性を理解しつつ、障害のある子ども一人一人の困り感に目を向け根拠のある具体的な支援の手立てを考え、実践していく力量が求められます。個々の教育的ニーズに応じた教育を実現することは、全ての子ども達にとっても効果的な授業となるユニバーサルデザインの授業へと発展していきます。</p> <p>本科目ではこうした点を踏まえながら、インクルーシブ教育システムの実現に向け、特別支援教育に関する基礎的・基本的な知識を学修し、障害種ごとの特性理解と支援の在り方について、考え、判断し、表現することを通して教育現場に生かすことができるよう実践的に学修を進めていきます。</p>																															
授業の目的																															
<p>1. 特別支援教育(意義・教育課程・制度・対象となる障害)について理解する。</p> <p>2. 特別な支援を要する子ども理解に関する基礎的知識を修得し、支援の具体策を考えることができる。</p>																															
授業計画																															
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">1. 第 1 章 特別支援教育の理念と制度</td> <td style="width: 33%;">2. 第 2 章</td> <td style="width: 33%;">8. 第 8 章 自閉症の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>小・中学校における特別支援教育の</td> <td>仕組み</td> <td>9. 第 9 章 情緒障害の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>3. 第 3 章 特別支援学級や通級による指導の</td> <td></td> <td>10. 第 10 章 言語障害の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>仕組みとその実際</td> <td></td> <td>11. 第 11 章 視覚障害の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>4. 第 4 章 特別支援学校における教育の仕組</td> <td></td> <td>12. 第 12 章 聴覚障害の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>みとその実際</td> <td></td> <td>13. 第 13 章 肢体不自由の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>5. 第 5 章 就学までの支援の仕組みとその実態</td> <td></td> <td>14. 第 14 章 病弱・身体虚弱の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>6. 第 6 章 注意欠陥多動性障害の理解と支援</td> <td></td> <td>15. 第 15 章 知的障害の理解と支援</td> </tr> <tr> <td>7. 第 7 章 学習障害の理解と支援</td> <td></td> <td>16. 試験</td> </tr> </table>					1. 第 1 章 特別支援教育の理念と制度	2. 第 2 章	8. 第 8 章 自閉症の理解と支援	小・中学校における特別支援教育の	仕組み	9. 第 9 章 情緒障害の理解と支援	3. 第 3 章 特別支援学級や通級による指導の		10. 第 10 章 言語障害の理解と支援	仕組みとその実際		11. 第 11 章 視覚障害の理解と支援	4. 第 4 章 特別支援学校における教育の仕組		12. 第 12 章 聴覚障害の理解と支援	みとその実際		13. 第 13 章 肢体不自由の理解と支援	5. 第 5 章 就学までの支援の仕組みとその実態		14. 第 14 章 病弱・身体虚弱の理解と支援	6. 第 6 章 注意欠陥多動性障害の理解と支援		15. 第 15 章 知的障害の理解と支援	7. 第 7 章 学習障害の理解と支援		16. 試験
1. 第 1 章 特別支援教育の理念と制度	2. 第 2 章	8. 第 8 章 自閉症の理解と支援																													
小・中学校における特別支援教育の	仕組み	9. 第 9 章 情緒障害の理解と支援																													
3. 第 3 章 特別支援学級や通級による指導の		10. 第 10 章 言語障害の理解と支援																													
仕組みとその実際		11. 第 11 章 視覚障害の理解と支援																													
4. 第 4 章 特別支援学校における教育の仕組		12. 第 12 章 聴覚障害の理解と支援																													
みとその実際		13. 第 13 章 肢体不自由の理解と支援																													
5. 第 5 章 就学までの支援の仕組みとその実態		14. 第 14 章 病弱・身体虚弱の理解と支援																													
6. 第 6 章 注意欠陥多動性障害の理解と支援		15. 第 15 章 知的障害の理解と支援																													
7. 第 7 章 学習障害の理解と支援		16. 試験																													
準備学習（予習・復習）																															
<p>授業計画を参考に教科書で予習してください。</p> <p>講義後に教科書や配布資料を見て復習してください。</p> <p>講義後に講義の内容や教科書のキーワードをノートに整理しておいてください。</p>																															
成績評価方法																															
<p>■試験：70 % □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30 %</p> <p>□その他[ ]</p> <p>演習課題、定期試験の詳細については講義で触れます。</p>																															
教科書		「教員をめざすための特別支援教育入門」大塚 玲 編著 萌文書林																													
参考書・Web サイト		特になし																													
単位修得が望ましい科目		なし																													
備考		なし																													

# 教育心理学 Educational Psychology

担当教員	五浦 哲也 (858 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		選択	1・2 年	後期
先端経営学科		選択	1・2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		選択	1・2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		選択	1・2 年	後期
授業概要				
<p>この授業では、教職科目としての教育心理学に関する歴史的な変遷等基礎的・基本的な知識・理解の習得・定着を目標とします。また、児童・生徒の心身の発達過程やパーソナリティに関する学修を踏まえた児童・生徒を理解できる力を身に付けます。さらに、学習理論や学習方法、教育評価を学修することで、授業に教育心理学的な観点を取り入れることができる能力を身に付けます。机上の学問ではなく、教育現場でいかに教育心理学を生かしていくことができるかという視点を重視し、教員を目指す学生の実践的な資質を高めることを目指します。</p>				
授業の目的				
<p>教員として教育現場において、教育心理学的側面から児童・生徒の理解および学習過程における基礎的・基本的かつ実践的な知識・理解を身に付け、根拠に基づいた教育実践ができるようになることを目標とする。</p>				
授業計画				
1. 学校と教育心理学 教育心理学の領域、課題、役割、方法 2. 発達の理論 発達の概念、発達段階、発達の諸理論 3. 乳幼児期の発達 身体、運動、認知、社会性の発達 4. 青年期の発達 青年期の意義、心理、行動 5. 学習の理論 学習の概念、条件付け、記憶 6. 効果的な学習 動機づけ、学習指導法 7. パーソナリティの理解 パーソナリティの形成、理論、理解 8. 知能と学力の理解 知能、知能測定の世界、歴史、学力、知能と学力		9. 教育評価 方法、統計の基礎 10. 不適応行動の理解 欲求と欲求不満、適応機制、不適切行動 11. 学校と教育相談 教育相談の考え方、不登校と教育相談 12. 心理療法 精神分析療法、行動療法、認知療法、クライエント中心療法 13. 特別な支援を必要としている児童・生徒の理解 発達障害への支援 (LD、ADHD) 14. 特別な支援を必要としている児童・生徒の理解 発達障害への支援 (自閉スペクトラム症) 15. 心理検査 WISC、KABC、田中ビネー 16. 評価 (テスト)		
準備学習 (予習・復習)				
<p>次の講義内容を教科書で確認する。            講義で学修した内容 (説明や配布資料) から重要なポイントをノートにまとめておく。</p>				
成績評価方法				
<p>■試験：70% □小テスト： % □レポート： % ■演習課題：30% □その他[ ]</p>				
教科書	「教職をめざす人のための教育心理学」 福村出版			
参考書・Web サイト	特になし			
単位修得が望ましい科目	特になし			
備考	授業計画で教科書に記載されていない内容は、資料を配布して講義を行います。			

# 教育心理学 Educational Psychology

担当教員	佐藤 公治(非常勤)		単位数	授業形態	ナンバリング
			2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		選択	1・2年	夏期集中	
先端経営学科		選択	1・2年	夏期集中	
情報メディア学科メディアデザイン専攻		選択	1・2年	夏期集中	
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		選択	1・2年	夏期集中	
授業概要					
この授業では、教職科目としての教育心理学に関する基本的な事項の習得と学校現場において学習者がどのように学習を進めているか、その特質について理解すること、そして授業者がどのような支援をすることが必要であるかを論じる。さらにこの授業の中では、近年学校現場での適切な対応が求められている特別な支援を必要としている児童・生徒の学習支援のあり方を彼らの学習特性と関連づけながら扱う。					
授業の目的					
この授業を通して学校現場における実践的問題は何であるか、その見通しをもつことと、教育的営為としてどのようなことを展開することが求められているのかを教育心理学の視点から理解することを目指す。					
授業計画					
1. 教育心理学の歴史：教育心理学の性格と課題 2. 学習と学力：学習観の変遷と教育改革、 3. 発達：その基本と新しい考え方 4. 学習：その基本と新しい考え方 5. 認知心理学による学習研究 6. 認知的動機づけ：新しい動機づけの理論 7. 認識の発達：ピアジェの発達・学習理論 8. 発達・学習と教育との連関：ヴィゴツキーの発達・教育理論			9. 記憶と問題解決の心理学 10. 算数・数学の教科学習 11. 理科の教科学習 12. 国語科の教科学習 13. 学習の協同体と文化的実践としての学習 14. 教室学習：対話と協同的学び 15. 特別な支援を必要としている児童・生徒の心身の発達及び学習の過程の特徴と指導について 16. 試験 授業は毎回テキストを使用して進める。小レポートの課題も数回（3回・予定）課す。試験結果と小レポートの内容を総合して成績評価とする。		
準備学習（予習・復習）					
各授業毎に事前学習（予習）と授業重要事項を確認して記入する学習シートを配布し、これらの記入作業を求める。					
成績評価方法					
■試験：80% ■平常点（予習・復習の達成度）：20%					
教科書		テキストを使って授業を進める。 書名：「学びと教育の世界—教育心理学の新しい展開—」 著者名：佐藤公治 発行所：あいり出版			
参考書・Web サイト		佐藤公治「認知心理学からみた読みの世界」（北大路書房） 佐藤公治「対話の中の学びと成長」（金子書房） 森敏明・秋田喜代美「教育心理学キーワード」（有斐閣）			
単位修得が望ましい科目					
備考					



# 教育制度論 Study of Educational Systems

担当教員	高島 裕美(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		選択必修	2・3年	夏期集中
先端経営学科		選択必修	2・3年	夏期集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻		選択必修	2・3年	夏期集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		選択必修	2・3年	夏期集中
授業概要				
<p>この授業の目的は、「教育という営みを支えている『仕組み』について理解する」ことにある。ここでいう「仕組み」とは、国家が国家として行うべき教育を支えている法律や規定・規範のことを指す。同時に、こうした「仕組み」はいつの時代も不変のものではない。ゆえに、現在の教育のあり方を規定している諸制度の変遷や、そこに伴う議論といった、「仕組み」が成立する歴史的背景についての学びが重要である。</p> <p>また現在、教育という営みは、多くの人にとってなじみ深い存在である「学校」と切り離しては考えられない。実際に多くの学校では、よりよい教育・学習活動の実現のための「仕組み」づくりにさまざまな工夫を各々こらしている。こうした「教育の現場」に対するまなざしも欠かすことはできない。</p> <p>こうした立場から、この授業では具体的な事例を用い、教育を支える「仕組み」をさまざまな角度から検討する。</p>				
授業の目的				
<p>この授業の受講者は、教職志望の学生が大半であると予想される。受講者が実際に教員として学校で働く際に、学校組織の仕組みや教育活動の根拠となる法制度、そして現在の学校をめぐる諸課題への対応の仕方をしっかりと理解し身に付けておくことは必要不可欠である。</p> <p>そのことを強く意識したうえで、現在の学校教育全体に対する多面的な理解を深め、自ら課題意識を持ち、よりよい教育の実現に積極的に取り組むことができるような教員としての力量を身に付けることを本授業の目標とする。</p>				
授業計画				
<p>1. 教育制度を学ぶことの意味；受講のガイダンス、授業への導入</p> <p>2. 教育制度の基本的原理（1）；教育と権利・義務、子どもの権利</p> <p>3. 教育制度の基本的原理（2）；国・地方公共団体の教育法、教育制度の法律主義</p> <p>4. 教育制度の基本的原理（3）；教育行財政制度</p> <p>5. 教育制度の基本的原理（4）；教育内容と学習指導要領・教育課程編成</p> <p>6. 教育制度についての歴史的考察（1）；日本国憲法と教育基本法</p> <p>7. 教育制度についての歴史的考察（2）；戦前から戦後にかけての日本の教育制度、現在の教育改革</p>		<p>8. 学校の制度（1）；義務教育の制度、教育の機会均等</p> <p>9. 学校の制度（2）；学校の種類、学校組織の構造</p> <p>10. 教職員の制度（1）；教員養成・採用・研修の仕組み</p> <p>11. 教職員の制度（2）；教員の専門性、教員に求められる力量</p> <p>12. 現在の学校と教職員をめぐる課題（1）；教職員集団・学校組織の変化</p> <p>13. 現在の学校と教職員をめぐる課題（2）；いじめ、「学級崩壊」、不登校、中退</p> <p>14. さまざまな教育制度；幼稚園・保育所・認定こども園、社会教育</p> <p>15. 授業のまとめ</p> <p>16. 試験</p>		
準備学習（予習・復習）				
<p>現代の教育をめぐる諸問題について、新聞や各種メディアを手がかりに概要を把握し、それらに対する自分の意見を表明できるように常に準備しておくこと。</p> <p>講義後には、配布資料や関係法令を見直し、復習すること。</p>				
成績評価方法				
<p>■ 定期試験（90%） □ 小テスト（ %） ■ レポート（10%） □ 演習課題（ %）</p> <p>□ その他 [ ]</p>				
教科書		<p>川口洋誉・中山弘之編著、2013、『未来を創る 教育制度論（未来の教師 ファースト・ステップ）』北樹出版</p> <p>※本書をベースに授業を進めるが、その他にレジュメ・資料を配布する。</p>		
参考書・Web サイト		<p>講義中に適宜、紹介する</p>		
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 教育社会学 The Sociology of Education

担当教員	菅原 健太(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		選択必修	2・3年	前期
先端経営学科		選択必修	2・3年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		選択必修	2・3年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		選択必修	2・3年	前期
授業概要				
<p>本講義では、それほど馴染みのない領域であろう「教育社会学」という学問について、専門的な知識を身につけると同時に、自らを取り巻く「教育」や「社会」における問題群を自らの問題として理解し考える力を育むことを目的とする。現代社会を生きる者として、「教育」という営みそれ自体を研究対象とする教育社会学に触れ、その基本的な考え方、考える姿勢を身につけることは非常に有効である。</p> <p>内容としては、Ⅰ. 教育機会の不平等、Ⅱ. 若年層の学校から社会への移行、〈大人になること〉、Ⅲ. 学校空間・若者の現在という3つの柱を立て、教育社会学の領域にて、古くから研究の対象とされているトピックから、現在の若年層の問題まで幅広く授業を展開する。また、「教育社会学」の授業である以上、授業の際には一方的に知識を教授するのではなく、学生の疑問点を授業時間に紹介、解説していくことを通して、自ら学ぶ姿勢の涵養に努めることとする。</p> <p>授業の進め方については、講義形式が中心であるが、授業内容に関する映像の鑑賞も適宜行っていく。</p>				
授業の目的				
<p>授業で扱う多様なトピックに触れることで、教育社会的な視点を持ち、自ら「問いを立てる」力、また「自分の答え」を自覚する力を養うことを到達目標とする。さらに、他者の話に耳を傾け、他者の生活世界について知ることで、これまでとは違う世界、自分を発見してもらいたい。</p>				
授業計画				
1. オリエンテーションー教育社会学とはー		9. 学校		
2. 学校化社会・脱学校化社会		10. クラスルーム		
3. 階層と教育①		11. スクールカースト①		
4. 階層と教育②		12. スクールカースト②		
5. ジェンダーと教育		13. 不登校問題		
6. エスニシティと教育		14. まとめ 教育社会学とは		
7. 就職の教育社会学		15. 総括		
8. 社会化・アイデンティティ		16.		
準備学習（予習・復習）				
<p>授業で取り上げるトピックを中心に、現代の若者を包む環境、若者の現状、教育と社会といった観点から、インターネット、本、新聞等、各種メディアを通して、自主的に学ぶこと。考えておくこと。授業でわからない事項について、参考書を利用して調べることも推奨する。</p>				
成績評価方法				
<p>□試験： % ■小テスト：20% ■レポート：80% □演習課題： %</p> <p>□その他[ ]</p>				
教科書	特になし			
参考書・Web サイト				
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 教育課程論 School Curriculum Studies

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2・3 年	前期
先端経営学科		必修	2・3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2・3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3 年	前期
授業概要				
<p>学校に着任した校長がいの一番にすること、それは学校の教育課程表をしっかりと見ることである。教育課程は学校教育において最重要であり、それをどのように編成し展開するかは、学校経営の一丁目一番地と言われるほどである。我が国の教育課程は、時代や社会の変化に対応すべく、様々な変化を遂げてきた。本授業では、教育課程に関する諸理論を概観するとともに、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の基本的な性格やその変遷、さらには現行の学習指導要領の主な特徴や次期学習指導要領の理念や改定内容を踏まえ、今後の新しい学校教育の展開とその課題を考察する。</p>				
授業の目的				
<p>①教育課程に関する基本的事項を理解する。②我が国の教育課程行政の仕組みを把握する。③学習指導要領の変遷と各年版の学習指導要領の主な特徴を把握する。④現行の学習指導要領の主な特徴を理解し、教育課程の効果的な展開を考える。⑤次期学習指導要領の理念や改定内容を把握し、今後の展開や課題を考察する。</p>				
授業計画				
1 ガイダンス 教育課程の意義 2 教育課程編成の思想と構造 3 近代・現代日本の教育課程の歩み 4 教育課程の編成と諸要因 5 学習指導要領と教育課程編成の実際 6 学校経営・学級経営・生徒指導と教育課程との関連 7 各教科と道徳・特別活動・総合的な学習の時間の関連 8 教育課程と評価		9 カリキュラム開発と学力向上策 10 国際学力調査の教育課程改革への影響 11 様々な教育課程の改革 12 次期学習指導要領の検討(1) 理念・キーワード 13 次期学習指導要領の検討(2) 改訂内容など 14 教育課程の現代的課題 15 講義のまとめ・総括テスト		
準備学習(予習・復習)				
<p>授業内容を振り返り、レジュメや配布資料等を参考にして、サブノートを作成していくことを勧めます。そのノートは、採用試験対策にとどまらず、教職に就いてからも時々読み返し、きっと実践を豊かにしてくれるでしょう。</p>				
成績評価方法				
<p>■総括テスト 25% ■小テスト 25% ■レポート・演習課題 25% ■その他[授業への参加態度や意欲]25%            詳細は講義で説明します。</p>				
教科書		<ul style="list-style-type: none"> <li>古川治ほか編(2015)「教職をめざす人のための教育課程論」北大路書房。</li> <li>毎時、レジュメ・資料を配布します。</li> </ul>		
参考書・Web サイト		<ul style="list-style-type: none"> <li>国立教育政策研究所編(2016)「国研ラブラリー 資質・能力[理論編]」東洋館出版社。</li> <li>苫野一徳著(2014)「教育の力」講談社現代新書。</li> <li>山田恵吾ほか著(2003)「第三版 学校教育とカリキュラム」文化書房博文社。</li> <li>安彦忠彦著(2014)「『コンピテンシー・ベース』を超える授業づくり」図書文化社。</li> </ul>		
単位修得が望ましい科目				
備考		<p>免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育課程の意義及び編成の方法」に対応する。</p>		

## 特別活動論 Study of Special Activities

担当教員	真鍋 孝徳(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2・3年	前期
先端経営学科		必修	2・3年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2・3年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3年	前期
授業概要				
<p>学校の教育課程は大きく分けると、授業を中心とした教科指導と授業以外の諸活動を含んだ教科外活動に区別されます。この中の教科外活動が「特別活動」に相当します。学校教育には知識や技術等を習得していく教科学習だけでなく、自主的な諸活動を通して、子どもの中に自律的で協同的な生活態度を形成していく教科外活動、すなわち特別活動が必要です。</p> <p>高等学校の教育課程の一領域である特別活動は、教育が目指す「人格の完成」と深くかかわっています。学校が「人間としての調和のとれた育成」に力点をおくならば、教科などの教育活動だけでなく、特別活動の働きが不可欠となります。</p> <p>歴史的には、教科外活動は戦前から行われていました。戦後、この教科外活動が「特別活動」として、教育課程に位置づけられていきます。</p> <p>高等学校における特別活動の歩みは、「自由研究」（1947年）、「特別教育活動」（1951年）、「各教科以外の教育活動」（1970年）、「特別活動」（1978年）というように、名称が変遷してきており、同時にその内容も変化してきました。現在の高等学校での特別活動の内容は、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事から構成されています。</p> <p>本科目は特別活動（高等学校）の歴史や意義、目標ならびに内容を理解し、指導原理等、三領域の内容と指導、特別活動の評価等について学んでいきます。</p>				
授業の目的				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動の意義と目標(高等学校)を理解する。</li> <li>2. 特別活動の各内容ごとの特質と指導原理を学ぶ。</li> <li>3. ホームルーム活動の機能と役割を把握する。</li> </ol>				
授業計画				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 特別活動を展開する学校の現状</li> <li>2. 「学校の荒れ三段階」に対する生徒会活動と部活動</li> <li>3. 入学式から始めるHR活動「高1スタートアップ・ガイダンスカリキュラム」</li> <li>4. 生徒の荒れに対応する「人生のモデル教材」～ワーキング・プア、女性の貧困～</li> <li>5. 学校祭と生徒会活動</li> <li>6. 特別活動を実践する教師の力量「反省的实践家」理論</li> <li>7. 生徒の心をとらえるカウンセリング理論と演習</li> <li>8. 心を育てるHR活動 ①「サイコエデュケーション」</li> <li>9. 心を育てるHR活動 ②「構成的グループエンカウンター（SGE）」</li> <li>10. HR活動の実践に役立つ理論①「発達理論」</li> <li>11. HR活動の実践の役立つ理論②「キャリア教育」</li> <li>12. HR活動で取り組む課題①「いじめ」</li> <li>13. HR活動で取り組む課題②「命の授業」</li> <li>14. 特別活動における部活動の役割</li> <li>15. 反省的实践家の実践的見識「幸福学」</li> <li>16. 試験</li> </ol>				
準備学習（予習・復習）				
講義後に授業ノート, 配布資料を見直し復習してください。				
成績評価方法				
<p>■試験：60％ □小テスト：％ ■レポート：20％ ■演習課題：20％</p> <p>□その他[ ]</p>				
教科書	特に指定しない。レジュメと資料を配布する。			
参考書・Web サイト	中谷 彪・白井 英治・大津 尚志 編 「特別活動のフロンティア」 晃洋書房 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」 東山書房			
単位修得が望ましい科目	なし			
備考	なし			

# 教育の方法と技術 Methods and Techniques of Education

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2 年	後期
先端経営学科		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2 年	後期
授業概要				
<p>教育を社会的なマクロな視点からみると、人類が蓄積してきた文化を次の世代に伝える作用といえるし、個人的なミクロな視点からみると、誕生した子どもを親から自立・自律した「人」へと導く働きかけと考えられる。学校の教育活動では、教授者、学習者、それに両者の間に介在する文化的な内容があり、それらの要件を枠付ける物的な環境条件（施設、設備など）や時間が関与している。その相互作用の過程で、より効果的な手段・方法を見出そうとするのが「教育の方法と技術」である。</p>				
授業の目的				
<p>学校教育に対する社会からのニーズの増加と複雑化により、教師が担うべきだとされる役割や責任は、ますます拡大する傾向にある。しかし、教師が「教育専門職（プロフェッション）」としてエネルギーと時間を最優先で傾注しなければならない仕事が「授業」であることはいままでのない。本科目では、これまでの教育方法・技術と授業に関する基本的な概念を整理し、教育方法と教授学の歴史、近代および現代の教授理論、カリキュラム（教育課程を含む）とその開発、授業における指導技術と学習意欲の向上・評価、教育メディアの発展と活用、教育における評価と改善などについての有意義な考え方と方法・スキルなどを学び、教師の授業実践の基盤づくりに資するものとした。</p>				
授業計画				
1. 教育の方法・技術と授業の諸概念 2. 教授学と教授法の歴史 3. 新教育運動の教授理論 4. 教育の現代化と教授理論 5. カリキュラムの概念と開発 6. カリキュラムの構造と類型 7. 教育課程と学習指導要領 8. 教師の役割・責任と授業における指導技術		9. 学習意欲を引き出す授業方法・技術と学習評価 10. 教育メディアと教育メディア活用の理論 11. 各種教育メディアと ICT 活用の進展 12. e ラーニングの進展と教授・学習理論 13. 新しい教材・コンテンツ開発と教育・学習環境 14. 教授組織のあり方と学習組織の形態 15. 教育評価の考え方と方法・技術		
準備学習（予習・復習）				
<p>授業内容を振り返り、教科書や配布資料等を参考にして、サブノートを作成していくことを勧めます。そのノートは、採用試験対策にとどまらず、教職に就いてからも時々読み返しながら、きっと実践を豊かにしてくれるでしょう。</p>				
成績評価方法				
<p>■総括テスト 25% ■小テスト 25% ■レポート・演習課題 25% ■その他[授業への参加態度や意欲]25%            詳細は講義で説明します。</p>				
教科書	書名：改訂版 教育の方法と技術（教職課程シリーズ），平沢 茂 編著 出版社：（株）図書文化社			
参考書・Web サイト	適宜、授業の中で紹介します。			
単位修得が望ましい科目				
備考	免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」における「教育の方法及び技術」に対応する。			

# 生徒指導 Student Guidance

担当教員	五浦 哲也 (858 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング																
		2 単位	講義																	
開講学科		種別	配当年次	開講時期																
システム情報学科		必修	2・3 年	前期																
先端経営学科		必修	2・3 年	前期																
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2・3 年	前期																
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3 年	前期																
<b>授業概要</b>																				
<p>いじめ、不登校、自殺、暴力行為、飲酒、喫煙、薬物乱用、性非行、万引き（窃盗）、学級崩壊、授業不成立等、生徒を取り巻く生徒指導に関わる問題は、教育現場だけではなく大きな社会問題とも言えます。教育現場では、生徒指導の意義と重要性を理解し、問題行動に対し、組織的に迅速かつ効果的な対応ができるだけでなく、生徒指導の機能を生かした学級経営や授業ができる資質と実践力が求められています。</p> <p>文部科学省の『生徒指導提要』では「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」が生徒指導であると述べています。そのためには、生徒の発達段階や実態、特徴、取り巻く環境等の背景などから多角的に理解し、将来を見通し計画的・組織的な指導を行うことが必要です。また、教員は教育公務員として法令に遵守し適切に生徒指導を行うことが重要です。さらに、生徒指導は特定の問題行動を起こした児童生徒に対処的に行うのではなく、全ての児童生徒を対象として、予防・開発的な視点を持ち実態に即した系統的・発展的な指導も望まれています。</p> <p>本科目ではこうした点を踏まえながら、教育現場における基礎的・基本的な生徒指導の在り方や考え方の基本を理解し、様々な生徒指導問題の実態と対応について自ら考え、判断し、表現することで学修を深めていきます。</p>																				
<b>授業の目的</b>																				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の意義と教育における重要性について理解する。</li> <li>2. 様々な問題行動の実態と生徒指導における対応について考え方、判断力、表現力を身に付ける。</li> </ol>																				
<b>授業計画</b>																				
<table border="0"> <tr> <td>1. 第 1 章 生徒指導の基本</td> <td>9. 第 9 章 生徒指導と授業</td> </tr> <tr> <td>2. 第 2 章 生徒指導体制</td> <td>10. 第 10 章 子どもの問題行動</td> </tr> <tr> <td>3. 第 3 章 生徒指導と教師の姿</td> <td>11. 第 11 章 いじめ</td> </tr> <tr> <td>4. 第 4 章 生徒指導と法制度</td> <td>12. 第 12 章 少年非行</td> </tr> <tr> <td>5. 第 5 章 生徒指導と教育相談</td> <td>13. 第 13 章 子どもに自立を促す生徒指導の手法</td> </tr> <tr> <td>6. 第 6 章 不登校</td> <td>14. 第 14 章 生徒指導とキャリア教育</td> </tr> <tr> <td>7. 第 7 章 生徒指導と学級経営</td> <td>15. 第 15 章 危機管理</td> </tr> <tr> <td>8. 第 8 章 支援が必要な子ども</td> <td>16. 試験</td> </tr> </table>					1. 第 1 章 生徒指導の基本	9. 第 9 章 生徒指導と授業	2. 第 2 章 生徒指導体制	10. 第 10 章 子どもの問題行動	3. 第 3 章 生徒指導と教師の姿	11. 第 11 章 いじめ	4. 第 4 章 生徒指導と法制度	12. 第 12 章 少年非行	5. 第 5 章 生徒指導と教育相談	13. 第 13 章 子どもに自立を促す生徒指導の手法	6. 第 6 章 不登校	14. 第 14 章 生徒指導とキャリア教育	7. 第 7 章 生徒指導と学級経営	15. 第 15 章 危機管理	8. 第 8 章 支援が必要な子ども	16. 試験
1. 第 1 章 生徒指導の基本	9. 第 9 章 生徒指導と授業																			
2. 第 2 章 生徒指導体制	10. 第 10 章 子どもの問題行動																			
3. 第 3 章 生徒指導と教師の姿	11. 第 11 章 いじめ																			
4. 第 4 章 生徒指導と法制度	12. 第 12 章 少年非行																			
5. 第 5 章 生徒指導と教育相談	13. 第 13 章 子どもに自立を促す生徒指導の手法																			
6. 第 6 章 不登校	14. 第 14 章 生徒指導とキャリア教育																			
7. 第 7 章 生徒指導と学級経営	15. 第 15 章 危機管理																			
8. 第 8 章 支援が必要な子ども	16. 試験																			
<b>準備学習（予習・復習）</b>																				
<p>授業計画を参考に参考書を読んでくる。 授業後に配布資料や教科書を読んで復習する。</p>																				
<b>成績評価方法</b>																				
<p>■試験（50%） □小テスト □レポート ■演習課題（50%） □その他[授業への参加意欲] 定期テスト、演習課題の詳細は、講義で触れます。</p>																				
<b>教科書</b>	「入門 生徒指導「生徒指導提要」から「いじめ防止対策推進法」まで」 片山紀子著 学事出版																			
<b>参考書・Web サイト</b>	文部科学省「生徒指導提要」教育図書 <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/22/04/1294538.htm</a>																			
<b>単位修得が望ましい科目</b>	なし																			
<b>備考</b>	なし																			

## 進路指導 Career Guidance

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2・3 年	後期
先端経営学科		必修	2・3 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2・3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3 年	後期
授業概要				
<p>本授業では進路指導・キャリア教育について、歴史的政策的な経緯を踏まえ、基本的な事項を解説し、学校教育のなかで進路指導・キャリア教育がどのような役割を担い、どのような意義を持つ教育活動であるのか、さらにこれからどのような教育実践が求められていくのかについて学ぶ。授業の方法は、講義・演習・発表等、履修者の参加を重視した方法で行う。</p>				
授業の目的				
<p>中学校・高等学校における進路指導・キャリア教育の政策的な経緯とその批判、現状について概略的に理解する。さらに、その実践的課題は何であるか等の見通しをもち、将来の実践者としての進路指導・キャリア教育の指導への意欲を高めるとともに、教職の指導基盤をつくる。</p>				
授業計画				
1. ガイダンス 2. キャリア教育の提唱とその推進施策 3. キャリア教育とは 4. キャリア教育の実践 5. キャリア教育と学習意欲の向上 6. インターンシップについて 7. 担任が実践するキャリア教育 8. キャリアカウンセリングと測定の方法		9. キャリア教育の実態から 10. キャリア教育の課題（弱み） 11. 進路指導の歴史的展開(1)日本への導入以前 12. 進路指導の歴史的展開(2)戦後日本から 13. 高等学校における進路指導の実際（就職指導） 14. 高等学校における進路指導の実際（進学指導） 15. まとめ・総括的テスト		
準備学習（予習・復習）				
<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の指定箇所を一度、読んでくること。（第1回目の授業には「はじめに」（pp. 1 - 11）を読んできてください。）</li> <li>授業後に教科書や配布資料を参考に、プリント（ノート）を見直して復習しましょう。</li> </ul>				
成績評価方法				
<p>■ 総括的テスト 25 % ■ 小テスト 25 % ■ 演習課題・レポート（25%） その他[授業への参加態度や意欲]25%            詳細は授業で説明します。</p>				
教科書		藤田晃之（2014）『キャリア教育基礎論—正しい理解と実践のために—』実業之日本社。		
参考書・Web サイト		<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省（2011）『中学校 キャリア教育の手引き』教育出版。</li> <li>文部科学省（2012）『高等学校 キャリア教育の手引き』教育出版。</li> <li>児美川孝一郎（2013）『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書。</li> <li>本田由紀（2009）『教育の職業的意義?若者、学校、社会をつなぐ』ちくま新書。</li> </ul> これらの他にも適宜紹介する。		
単位修得が望ましい科目		なし		
備考		免許法に基づく中学校・高等学校の教員免許状取得に必要な「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」における「進路指導の理論及び方法」に対応する。		

# 学校教育相談 School Counseling

担当教員	中村 正巳 (851 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2・3 年	前期
先端経営学科		必修	2・3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2・3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3 年	前期
授業概要				
<p>現在、不登校、いじめ、非行等、学校は多くの教育問題を抱えている。その渦中にある児童生徒はもちろん教師や保護者も戸惑い悩んでいる。児童生徒が学校生活で成長する過程で遭遇する諸問題には生徒指導はもちろんだが、教育相談・カウンセリングの果たす役割は非常に重要である。学校には心理臨床の専門家であるスクールカウンセラーも派遣されつつあるが、日常の教育活動の中での教師による教育相談・カウンセリング的対応は最も効果的である。</p> <p>本科目では児童生徒の話をいつでも聴ける知識や技術の基礎知識を学ぶ。教育カウンセリングの視点からピアヘルピング等の実践的な内容も学ぶ。教職を目指す皆さんが、教育相談・カウンセリング(ピアヘルピング)について十分理解でき、教師として必要な学校教育相談の基礎理論を自覚的に考察できるようにする。</p>				
授業の目的				
<p>教職を目指す皆さんが、学校という視点から、教育相談・カウンセリングについて十分理解でき、教師として必要な学校教育相談の基礎理論を自覚的に考察できるようにする。</p>				
授業計画				
1 ガイダンス～学校教育と教育相談 2 構成的グループエンカウンター体験 3 カウンセリングの定義・種類・関係領域 4 カウンセリングの理論 1 5 カウンセリングの理論 2 6 カウンセリング(ピアヘルピング)のプロセス・カウンセラー(ピアヘルパー)のパーソナリティ 7 カウンセリングスキル 1 (受容・共感・繰り返し) 8 カウンセリングスキル 2 (明確化・支持) 9 カウンセリングスキル 3 (質問・総合演習)		10 カウンセリングの非言語的スキル 11 諸問題への対処法とスキルの上達法 12 青年期の課題と留意点 1～学業・進路 13 青年期の課題と留意点 2～友人・グループ 14 青年期の課題と留意点 3～関係修復・心理 15 まとめ		
準備学習(予習・復習)				
<p>授業計画を参考に、教科書の該当する部分や、関心のあるテーマについて予習しましょう。            授業後に配布資料や教科書を参考にノートを見直して復習し、小テストに備えましょう。</p>				
成績評価方法				
<p>□試験： % ■小テスト：40 % ■レポート：40 % ■演習課題：10 %            ■その他[授業感想コメント] 10 %</p>				
教科書	日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーワークブック』図書文化社			
参考書・Web サイト	大友、瀬尾、中村編著『教育カウンセリングとイノベーション』三恵社 秋山、谷川、柳澤編著『相談援助演習』弘文堂			
単位修得が望ましい科目	生徒指導、特別支援教育			
備考				



# 商業科教育法Ⅰ Teaching Methods of School Subjects(Business Science)Ⅰ

担当教員	阿部 諭(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		選択	2・3年	前期
先端経営学科		選択	2・3年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		選択	2・3年	前期
授業概要				
<p>この講義は教職課程を履修している者のうち、教科「商業」の教育職員免許を取得し、将来商業科教員を目指すことを前提としている。</p> <p>教科「商業」の基礎的な科目、総合科目、四つの分野の科目構成、目指す能力や内容等について学習する。また、基礎科目、総合科目、四分野の科目から内容の一部をミニ模擬授業として実践する。さらに、新学習指導要領と教育基本法等との関係についても理解を深める。</p>				
授業の目的				
商業に関する教育内容を体系的に分類し、それぞれの学習分野について基礎的・基本的な知識と技術を習得する。				
授業計画				
1回 ガイダンス、高等学校の現状、教職の専門性と教員の資質能力等(資料) 2回 教育基本法と学校教育法及び教育振興基本計画等(資料) 3回 新学習指導要領改訂の理解(P1-P10) 4回 基礎科目(ビジネス基礎)の内容等の概観(P11-15) 5回 基礎科目(ビジネス基礎)の指導の実践 6回 マーケティング分野の科目構成と内容等の概観(P24-P36) 7回 マーケティング分野の指導の実践 8回 ビジネス経済分野の科目構成と内容等の概観(P37-P50)		9回 ビジネス経済分野の指導の実践 10回 会計分野の科目構成と内容等の概観(P51-P71) 11回 会計分野の指導の実践 12回 ビジネス情報分野の科目構成と内容等の概観(P72-P94) 13回 ビジネス情報分野の指導の実践 14回 総合科目の科目構成と内容等の概観(P16-P23) 15回 総合科目(ビジネス実務)の指導の実践、課題レポート提出、まとめ  教育は崇高で、深い責任を持たなければならない。受講者はそのことを十分踏まえ、教員としての心構えを持って受講してください。		
準備学習(予習・復習)				
授業計画を参考に教科書の該当部分を読んで予習をしてください。 指導の実践では事前に提示した指導項目を指導できるよう十分予習をしてください。 講義後には授業ノート、配付資料等の見直し、指導実践後には自己評価等により復習をしてください。				
成績評価方法				
<input type="checkbox"/> 試験： % <input type="checkbox"/> 小テスト： % <input checked="" type="checkbox"/> レポート：40% <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題： 40% <input checked="" type="checkbox"/> その他[討論参加状況受講態度等(20%)]				
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説(商業編)」平成22年5月初版発行 実教出版			
参考書・Webサイト	適宜資料配付			
単位修得が望ましい科目				
備考				

## 商業科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Business Science) Ⅱ

担当教員	阿部 諭(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2・3年	後期
先端経営学科		必修	2・3年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3年	後期
授業概要				
<p>「商業科教育法Ⅰ」の上級編です。商業教育は「ビジネス」学習を通して、学習者の望ましい人間形成を目指し、産業経済社会の発展に有為な人材の育成を目的としている。このような趣旨を踏まえて、商業専門科目の内容とその指導法及び指導技術等を教育現場の課題や問題点を意識しながら、講義と演習（指導案の作成、模擬授業）により進める。</p>				
授業の目的				
<p>商業科教員として必要な知識・技術と指導内容、指導方法等の資質の向上を図り、時代に即した望ましい授業展開の在り方を研究する。</p>				
授業計画				
1回 ガイダンス、教育課程と学習指導(資料) 2回 年間指導計画の作成(P105-P106)(資料) 3回 授業計画の進め方と学習指導案(資料) 4回 学習指導案の作成と教材研究(1)基礎的分野<演習> 5回 学習指導案の作成と教材研究(2)マーケティング分野<演習> 6回 学習指導案の作成と教材研究(3)ビジネス経済分野<演習> 7回 学習指導案の作成と教材研究(4)会計分野<演習> 8回 学習指導案の作成と教材研究(5)ビジネス情報分野<演習> 9回 学習指導案の検討・評価と批評及び加筆修正<発表・演習> 10回 基礎的分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評		11回 マーケティング分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 12回 ビジネス経済分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 13回 会計分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 14回 ビジネス情報分野の模擬授業実践と授業研究、批評と講評 15回 商業教育の課題と展望、教員の心得、課題レポート提出、まとめ 授業実践研究では、教員になったつもりとその自覚を持って臨んでほしい。		
準備学習（予習・復習）				
<p>授業計画を参考に教科書の該当部分を読んだり、事前に資料配付の各回に必要な基礎知識をWeb上などから収集し、予習してください。</p> <p>模擬授業に向け授業の流れを予習してください。</p> <p>講義後、授業ノート、配付資料や各自収集した資料を見直し、復習してください。</p> <p>模擬授業後は、自己評価・観察評価などにより復習してください。</p>				
成績評価方法				
<input type="checkbox"/> 試験： % <input type="checkbox"/> 小テスト： % <input checked="" type="checkbox"/> レポート：30% <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題： 50% <input checked="" type="checkbox"/> その他[討論参加状況受講態度等(20%)]				
教科書	文部科学省「高等学校学習指導要領解説（商業編）」平成22年5月初版発行 実教出版			
参考書・Webサイト	適宜資料配付			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 数学科教育法 I Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) I

担当教員	松井 伸也 (224 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		選択	2・3 年	前期
先端経営学科		選択	2・3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		選択	2・3 年	前期
授業概要				
<p>授業を受ける生徒達が「論理的な文章がかけること」を要求することは、学校にもよりますが、必要はないと思いません。しかし、数学を教える教員は、論理的な記述が出来る必要があります。これはなかなか難しいことです。例えば、「<math>1 + 1 = 3</math>」ならば「すべての実数 <math>x</math> に対し、<math>x^2 &lt; 0</math>」が成立する。この命題は正しいでしょうか、間違いでしょうか、判断できますか。さらに命題とは何でしょうか。</p> <p>何か数学的対象を「教える」場合、「定義」を理解することが必要です。定義は論理的な文章で記述されています。様々な数学的事実を明確にし、迷いのない形で「自分の数学」を構成する上での基礎作りを行いたいと思います。</p>				
授業の目的				
数学の言葉を理解し、迷いなく数学を教えられる基礎を作る。				
授業計画				
1 数学とは	2 集合, 論理, 数学の言葉 導入	3 集合, 論理, 数学の言葉 基礎	4 集合, 論理, 数学の言葉 応用	5 集合, 論理, 数学の言葉 演習
6 数学の体力	7 数学記号の成り立ち	8 小学校算数の目標と内容	9 中学校数学の目標と内容	10 高等学校数学の目標と内容
			11 教材研究 (四則演算)	12 教材研究 (定数, 変数, 未知数, 関数)
			13 教材研究 (整数)	14 教材研究 (複素数)
			15 教材研究 (初等関数)	16 定期試験
準備学習 (予習・復習)				
簡単なレポート問題を課し, 予習復習とする。				
成績評価方法				
■試験 : 55% ■小テスト・レポート・演習 : 45%				
教科書	とくに設定しない。			
参考書・Web サイト	石川剛郎 著「論理・集合・数学語」共立出版 宮腰忠 著「高校数学+アルファ」共立出版			
単位修得が望ましい科目				
備考				

## 数学科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) II

担当教員	椿 達(854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		選択	2・3 年	後期
先端経営学科		選択	2・3 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		選択	2・3 年	後期
授業概要				
<p>数学科教育法Ⅰで学んだことを基礎にして、高等学校の数学の授業を担当する実践的指導力を養成するため、授業方法や評価法、指導計画の作成や教育機器の活用法、学習指導案の作成について学び、演習（学習指導案の作成、模擬授業、グループ討議）を通して望ましい授業実践力を習得する。</p>				
授業の目的				
<p>数学指導法を理解するとともに、各科目の内容について学習指導案を作成、模擬授業を通して高等学校数学の授業実践力を養成する。</p>				
授業計画				
1 ガイダンス 2 数学授業の方法 3 授業評価、学習評価 4 学習指導計画 5 教育機器の活用法 6 学習指導案の作成 7 模擬授業の実施（中学校数学の「数と式」） 8 模擬授業の実施（中学校数学の「図形」） 9 模擬授業の実施（中学校数学の「関数、資料と活用」）		10 模擬授業の実施（「数学Ⅰ」） （数と式、2次関数、図形と計量、データ分析） 11 模擬授業の実施（「数学A」） （場合の数と確率、整数、図形の性質） 12 模擬授業の実施（「数学Ⅱ」） （いろいろな式、図形と方程式、指数・対数・三角関数、微積分） 13 模擬授業の実施（「数学B」） （確率分布、数列、ベクトル） 14 模擬授業の実施（「数学Ⅲ」） （平面曲線・複素数平面、極限、微分、積分） 15 まとめ・総括的テスト		
準備学習（予習・復習）				
<p>（予習）数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの教科書の例題と問題はすべて解けるように理解しておくこと。            （復習）講義で扱った単元の板書計画を作成すること。（作成の方法や様式は第1回目の講義にて指導します。）</p>				
成績評価方法				
<p>■ 総括的テスト 25 % ■ 模擬授業 25% ■ 演習課題・レポート（25%）その他[授業への参加態度や意欲]25%            詳細は授業で説明します。</p>				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメ・資料を配布する</li> <li>高等学校数学科用教科用教科書「詳説 数学Ⅰ」「詳説 数学Ⅱ」「詳説 数学Ⅲ」「詳説 数学A」「詳説 数学B」啓林館</li> </ul>			
参考書・Web サイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校学習指導要領（文部科学省）平成21年9月，東山書房</li> <li>高等学校学習指導要領解説・数学編（文部科学省ホームページ）</li> </ul>			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 数学科教育法Ⅲ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) III

担当教員	林 雄一郎(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	3年	前期
先端経営学科		必修	3年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	3年	前期
授業概要				
<p>数学科教育法 III は、中学校数学科の目標・内容を踏まえて、教材研究や数学的活動について学び、もって実践的な指導力の基礎を身につけることをねらいとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の到達目標</li> </ul> <p>中学校数学に関する教材研究の実践的な知識の理解を通して、中学校の数学の教員に求められる基礎的、基本的な資質・能力の形成を目指す。</p>				
授業の目的				
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校数学の目標・学習内容、数学的活動について理解する</li> <li>中学校数学の内容に関する教材観を確立する</li> <li>指導計画の作成、教育機器に活用について理解する</li> <li>教材研究の実践的な知識を習得する</li> </ul>				
授業計画				
第1回：ガイダンス		第9回：教育機器の活用 (コンピュータを活用した授業)		
第2回：中学校数学の目標 (小学校算数との関連)		第10回：教材観の形成 (数と式)		
第3回：中学校数学の内容 (数と式)		第11回：教材観の形成 (平面図形、空間図形、合同、相似、円周角の定理)		
第4回：中学校数学の内容 (図形と計量)		第12回：教材観の形成 (三平方の定理)		
第5回：中学校数学の内容 (関数)		第13回：教材観の形成 (比例・反比例、1次関数)		
第6回：中学校数学の内容 (資料の活用)		第14回：教材観の形成 (2次関数)		
第7回：数学的活動 (問題解決の方法、数学的言語活動)		第15回：教材観の形成 (資料の活用)		
第8回：指導計画の作成 (指導案、学習指導計画)		第16回：定期試験		
準備学習 (予習・復習)				
レジュメを前もって配布し予習を促す				
成績評価方法				
<p>■試験： % □小テスト： % ■レポート： % □演習課題： %</p> <p>■その他[数学を指導するための基礎的な知識の理解の程度や実践的な指導力について、試験やレポートにより総合的に判定し評価する。]</p>				
教科書	・中学校数学1, 2, 3 (教育出版)			
参考書・Web サイト	・数学科教育法—中学校・高校、杉山ほか、学文社			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 数学科教育法Ⅳ Teaching Methods of School Subjects(Mathematics) Ⅳ

担当教員	林 雄一郎(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	3年	後期
先端経営学科		必修	3年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	3年	後期
授業概要				
<p>数学科教育法Ⅳは、数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで修得した数学教育についての知識理解や技能を踏まえ、コンピュータを活用した教材開発を行い、もって数学の教員に求められる基礎的、基本的な実践的指導力を育成することをねらいとします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講義の到達目標</li> <li>コンピュータを活用した授業の考察を行うとともに、学習ソフトを用いて教科書の内容をもとにした教材開発を行い、実践的な指導力の形成を目指す。</li> </ul>				
授業の目的				
<ul style="list-style-type: none"> <li>中学数学の学習における数学ソフトの活用について理解する</li> <li>いろいろな数学ソフトを活用する力量を習得する</li> <li>数学ソフトを用いた教材開発を行う</li> <li>数学ソフトを活用した授業を工夫する</li> </ul>				
授業計画				
第1回：ガイダンス 第2回：数学ソフトの研究（GRAPES） 第3回：数学ソフト GRAPES（関数教材） 第4回：数学ソフト GRAPES（幾何教材） 第5回：数学ソフト GRAPES（操作、演習） 第6回：数学ソフトを活用した授業（ソフト活用と指導案の作成） 第7回：教材の作成（教材の選定） 第8回：教材の作成（ソフト教材の作成） 第9回：教材の作成（ソフト教材の開発）		第10回：授業指導案の作成 第11回：数学ソフトを用いた模擬授業（授業、グループ別討論） 第12回：数学ソフトを用いた模擬授業（再授業、グループ別討論） 第13回：数学ソフトを用いた模擬授業（再々授業、グループ別討論） 第14回：数学ソフトを用いた模擬授業（研究授業、全体討論） 第15回：数学ソフトと数学の授業（レポート作成） 第16回：定期試験		
準備学習（予習・復習）				
レジュメを前もって配布し予習を促す				
成績評価方法				
■試験： % □小テスト： % ■レポート： % □演習課題： % ■その他[数学の各教材に対する指導観や指導方法について、試験・レポートにより総合的に判定し評価する。]				
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校数学1、2、3 教育出版</li> <li>関数グラフソフトGRAPESパーフェクトガイド、文英堂</li> </ul>			
参考書・Webサイト				
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 情報科教育法 I Teaching Methods of School Subjects (Information Science) I

担当教員	山北 隆典 (139 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2・3 年	前期
先端経営学科		必修	2・3 年	前期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2・3 年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3 年	前期
<b>授業概要</b>				
<p>高等学校の共通教科「情報」及び専門教科「情報」の授業を担当するために最低限必要な事項、すなわち、教科の目標、科目の編成、指導内容、それらの取扱い等について、学習指導要領解説情報編をもとに確認します。特に、共通教科「情報」は必履修教科であるため、学習目標、科目編成、指導内容については情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて確認していきます。</p> <p>また、学習指導計画の作成を行う上で抛り所となる事項（学習目標、観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について、ICT 活用と関連付けて確認していきます。これらの知識は情報科教育法 II の履修につながるものです。</p>				
<b>授業の目的</b>				
<p>高等学校の共通教科「情報」及び専門教科「情報」について、わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科の目標、科目の編成、指導内容等を説明できるようになることを目指します。</p> <p>また、学習指導計画を作成する上で抛り所となる事項（学習目標、観点別学習状況の評価、実習中心の授業展開）について ICT 活用と関連付けて説明できるようになることを目指します。</p>				
<b>授業計画</b>				
1. 情報化の進展と現行の学習指導要領 2. 教育の情報化とその現状 3. 共通教科「情報」の目標、科目編成 4. 「社会と情報」の内容 5. 「情報の科学」の内容 6. 指導計画の作成と内容の取り扱い 7. 専門教科「情報」の目標、科目編成 8. 専門教科「情報」・各科目の内容		9. 教育課程の編成と指導計画の作成 10. 学習目標と観点別学習状況の評価 11. 学習目標と ICT を活用した学習活動 12. 評価規準の設定と ICT を活用した評価方法 13. ICT を活用した実習中心の授業展開（検討） 14. ICT を活用した実習中心の授業展開（発表と考察） 15. 学校における ICT 環境の整備 16. 試験		
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
<p>授業計画を参考に教科書の該当部分を読んで予習してください（授業の際にも明示しますし、適宜、関連資料を提供します）。</p> <p>講義後に授業ノート、配付資料を見直し、復習してください。指示がある場合には提出資料の作成も行ってください。</p>				
<b>成績評価方法</b>				
<p>■試験： 50%      ■小テスト： 25%      ■レポート：10%      □演習課題： %</p> <p>■その他[ グループワーク：15% ]</p>				
<b>教科書</b>	文部科学省：『高等学校学習指導要領解説 情報編 平成 22 年 5 月』開隆堂出版株式会社			
<b>参考書・Web サイト</b>	岡本敏雄ほか：『情報科教育法』丸善出版（2015） 本村猛能ほか：『改訂 情報科教育法』学術図書出版社（2010） 久野靖、辰巳丈夫：『情報科教育法（改訂 2 版）』株式会社オーム社（2009）			
<b>単位修得が望ましい科目</b>	情報系、メディア系基礎科目			
<b>備考</b>	<p>専門教科「情報」においては、本学における専門教科の内容と強く関連する項目が多くあります。受講者はすでにそれらの内容については概ね理解できているものとして、本講では詳細に取扱いません。理解できていない、もしくはこれまでに学習していない場合には、その内容を独学しながら受講する覚悟が求められます。</p>			

## 情報科教育法Ⅱ Teaching Methods of School Subjects (Information Science) II

担当教員	山北 隆典 (139 研究室)		単位数	授業形態	ナンバリング
			2 単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	2・3 年	後期	
先端経営学科		必修	2・3 年	後期	
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	2・3 年	後期	
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3 年	後期	
<b>授業概要</b>					
<p>情報科教育法Ⅰで学んだ内容をもとに、共通教科「情報」の授業を対象とし、実習中心の指導を行うための指導案の作成方法と授業の進め方を体験的に学習します。授業ではグループで作成した「本時の指導案」を題材に、指導案作りのポイントを確認します。さらに、指導案に基づいた模擬授業を体験し、授業を進める上でのポイントについても確認します。なお、教材作りや指導案の作成、模擬授業の準備は、授業以外の時間にも行うことになるでしょう。これは、他の科目における予習・復習に相当します。</p>					
<b>授業の目的</b>					
<p>実習中心の実践的な授業に関する指導計画を立案するための基本的な考え方、配慮すべき事項を説明できるようになることを目指します。</p> <p>教科目標の達成に向けた授業を展開するために指導方法を工夫し、実践していくために求められるスキルや態度を説明できるようになることを目指します。</p>					
<b>授業計画</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>学習指導計画の作成（実習中心の授業展開）</li> <li>実習教材研究（情報のデジタル化・データの圧縮）</li> <li>教材化検討・本時指導案作成（情報のデジタル化・データの圧縮）</li> <li>本時指導案の発表と検討（情報のデジタル化・データの圧縮）</li> <li>実習教材研究（ネットワーク・セキュリティ）</li> <li>教材化検討・本時指導案作成（ネットワーク・セキュリティ）</li> <li>本時指導案の発表と検討（ネットワーク・セキュリティ）</li> <li>実習教材研究（問題解決・アルゴリズム）</li> <li>教材化検討・本時指導案作成（問題解決・アルゴリズム）</li> </ol>			<ol style="list-style-type: none"> <li>本時指導案の発表と検討（問題解決・アルゴリズム）</li> <li>本時指導案の改善</li> <li>模擬授業準備</li> <li>模擬授業（A グループ）と検討会</li> <li>模擬授業（B グループ）と検討会</li> <li>総合演習とまとめ</li> </ol> <p>演習中心で進めるため、受講者数によっては授業計画を大きく変更する可能性があります。</p>		
<b>準備学習（予習・復習）</b>					
<p>教材作りや指導案の作成、模擬授業の準備は、授業以外の時間にも行うことになるでしょう。各受講者が報告や発表を念頭において、主体的に調査し、整理し、作成し、準備を整えてください。こうした作業が、他の科目における予習・復習に相当します。</p>					
<b>成績評価方法</b>					
<p>□試験： % □小テスト： % ■レポート： 15% ■演習課題： 35%</p> <p>■その他[ 指導案： 20% 模擬授業： 30% ]</p>					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>文部科学省：『高等学校学習指導要領解説 情報編 平成 22 年 5 月』開隆堂出版株式会社 (情報科教育法Ⅰと同じ教科書です。)</li> <li>山極隆監修、岡本敏雄ほか；最新情報の科学 新訂版 実教出版（7 実教 情科 307）</li> </ol>				
参考書・Web サイト	<p>岡本敏雄ほか：『情報科教育法』丸善出版（2015）          本村猛能ほか：『改訂 情報科教育法』学術図書出版社（2010）          久野靖、辰巳丈夫：『情報科教育法（改訂 2 版）』株式会社オーム社（2009）</p>				
単位修得が望ましい科目	<p>情報科教育法Ⅰ          （わが国における情報教育の体系的・系統的なカリキュラムの中に位置付けて、教科「情報」の目標、科目の編成、指導内容等を説明できること、学習指導要領の内容を理解していること、学習指導計画を作成する上で拠り所となる事項について ICT 活用と関連付けて説明できることが受講の前提となります。）</p>				
備考	<p>単なる知識伝達の授業ではありません。グループワークが中心となりますので、授業への積極的な参加態度が求められます。</p>				



# 道徳教育の理論と実践 Theory and Practice of Moral Education

担当教員	日下部 憲一(非常勤)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2単位	講義	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	2・3年	前期
先端経営学科		必修	2・3年	前期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	2・3年	前期
<b>授業概要</b>				
<p>道徳教育とは、人間が本来、人間としてよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動であり、学校教育の中核となるものである。</p> <p>そこで、学校における道徳教育の実際について学習するとともに、道徳教育の要である道徳の時間（平成31年度からは道徳科）の指導を通して、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」その在り方について学習する。</p>				
<b>授業の目的</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳教育にかかわる歴史的な背景と現状及び道徳教育の実際、様々な課題等について理解することができる。</li> <li>2 道徳の時間の指導において、ねらいに迫り、心に響く道徳授業の在り方について研究を深め、創意工夫を生かした学習指導案を作成することができる。</li> <li>3 魅力的な道徳教材の開発と発掘に努めるとともに、その効果的な活用について研究を深めることができる。</li> </ol>				
<b>授業計画</b>				
第1回：ガイダンス・道徳教育の現状と課題（子供を取り巻く現状等） 第2回：道徳教育の理論（本質、世界の道徳教育等）及び道徳教育の歴史（戦前と戦後） 第3回：学習指導要領における道徳の目標と内容及び「私たちの道徳（心のノートの改称）」 第4回：道徳教育の実際1（道徳の指導計画と道徳の時間の指導及び学習指導案の内容） 第5回：道徳教育の実際2（学習指導の多様な展開） 第6回：道徳教育の実際3（教育活動全体を通じて行う指導と家庭や地域社会との連携） 第7回：道徳授業の実際1（読み物資料と模擬授業「お母さんの請求書」） 第8回：道徳授業の実際2（読み物資料と模擬授業「バスと赤ちゃん」）		第9回：学習指導案の研究と作成1（読み物資料による研究） 第10回：学習指導案の研究と作成2（読み物資料による研究結果から指導案作成） 第11回：学習指導案の研究と作成3（視聴覚資料による研究） 第12回：学習指導案の研究と作成4（視聴覚資料による研究結果から指導案作成） 第13回：学習指導案の研究と作成5（新聞資料による研究） 第14回：学習指導案の研究と作成6（新聞資料による研究結果から指導案作成） 第15回：道徳教育のまとめと展望（学習指導案の研究発表） 第16回：試験		
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
<p>日頃から新聞、書籍、身近な出来事等に関心を持つとともに、授業計画を参考に教科書の該当部分を読んで予習する。さらに、講義後にワークシートや配付資料を見直し復習する。毎回1時間程度の予習復習を行い常に課題意識をもち授業に臨む。さらに、授業後適宜出す課題レポートは次週に必ず提出する。</p> <p>課題レポートについてまとめ、指定された期日に提出する。</p>				
<b>成績評価方法</b>				
<p>■試験：50% ■レポート：50%</p> <p>■その他 課題レポートや受講態度などの平常の学習意欲及び試験等により総合的に評価する。</p>				
教科書	文部科学省 中学校学習指導要領解説・道徳編（日本文教出版 139円）			
参考書・Webサイト	必要に応じてワークシートや資料を配付する。その都度指示する。			
単位修得が望ましい科目				
備考				

# 教育実習 I Practice Teaching I

担当教員	中村 正巳 (851 研究室), 五浦 哲也 (858 研究室), 椿 達 (854 研究室)		単位数	授業形態	ナンバリング
			1 単位	実習	
開講学科		種別	配当年次	開講時期	
システム情報学科		必修	4 年	冬期集中	
先端経営学科		必修	4 年	冬期集中	
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	4 年	冬期集中	
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	4 年	冬期集中	
授業概要					
<p>「教育実習」は、教師を志望する学生が、講義などを通して習得した理論や技能を学校教育の実際場面へ適用し、実践的な体験をする学習活動です。大学の講義では得られない教育を行う諸能力を身に付けるために、実践を通して集中的に取り組む学習になります。</p> <p>高等学校の教員免許の取得希望者は2週間以上、中学校の教員免許の取得希望者は3週間以上、教育実習を行なうこととなります。「教育実習 I」では、そのための事前指導（事前学習）と事後指導（事後学習）を行います。</p> <p>教育実習のねらいは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何かについて、体験する。</li> <li>2. 大学で学んだ知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学では得られない実践的な教育技術を身に付ける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>「教育実習 I」事前指導（事前学習）では、所期のねらいを達成するように準備、訓練を行うための学習となります。「教育実習 I」事後指導（事後学習）では、「教育実習 II/教育実習 II・III」の終了後に、そこでの学習のまとめ及び教育についての見つけなおしを行い、その報告を行います。</p>					
授業の目的					
<p>事前指導：教育実習並びに学校教育活動に関する基礎的・基本的事項について理解を深め、教育実習に向けての心構え、課題意識を養う。</p> <p>事後指導：教育実習を振り返り、教育実践を通して学んだ教育活動についてその工夫・改善、向上のあり方に気付かせ、さらに、教育実践に対する自覚と意欲を強化する。</p>					
授業計画					
<p>「教育実習 I」を目的通りに達成するため、事前指導と事後指導により進めます。</p> <p>1. 事前指導（3年・4年に実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生は、4年生の実習報告会全てに必ず参加すること（3年の7月末、9月末、10月初めの予定）</li> <li>・以下の集中講義（2月予定）と模擬授業の実施（4月）</li> </ul> <p>&lt;集中講義を実施（3年の2月）&gt;</p> <p>第1回 1 教育実習の意義 2 教員に求められる資質 3 教育実習に臨むにあたっての心構え・マナー</p> <p>第2回 4 教育実習の内容（1） 授業実習</p> <p>第3回 5 教育実習の内容（2） 特別活動等の指導</p> <p>第4回 6 教育実習生の日 7 事前準備 8 教育実習を終えるにあたって</p> <p>&lt;4年の4月に実施&gt;</p> <p>第5回 9 模擬授業 第6回 10 模擬授業 第7回 11 模擬授業</p>			<p>2. 事後指導（4年、教育実習 II /教育実習 II・III 終了後に実施）</p> <p>事後指導の内容は、以下の通りです。</p> <p>(1) 教育実習レポートの作成</p> <p>内容：教育実習で学んだこと、工夫したこと、反省したこと、あらためて教職について感じたこと、考えたこと等</p> <p>様式：A4版・3枚程度（40字・30行）</p> <p>最初に「平成〇〇年度 教育実習レポート」と表記、学籍番号・氏名を記入する。</p> <p>次に「教育実習校」と教育実習の期間を記すこと。</p> <p>提出：「教育実習 II/教育実習 II・III」終了後、2週間以内、教務課へ</p> <p>(2) 「教育実習 II/教育実習 II・III」における教育実習報告会にすべて出席し、いずれかに報告する。（7月、9月、10月を予定）</p> <p>（次年度教育実習参加予定者を含む）</p>		

準備学習（予習・復習）	
教育実習に向けて、教育実習報告会等に必ず出席し、教育実習への心構えや教材研究等、教育実習の予習をしましょう。教育実習後は実習日誌を参考にして、体験発表し、教職実践演習に向けて復習しましょう。	
成績評価方法	
<input type="checkbox"/> 試験： % <input type="checkbox"/> 小テスト： % <input checked="" type="checkbox"/> レポート： % <input checked="" type="checkbox"/> 演習課題： % <input checked="" type="checkbox"/> その他 [教育実習報告会での報告]	
教科書	テキスト：○『教育実習の手引』（第6版） ○『教育実習日誌』（第3版） 共に、北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編学術図書出版社
参考書・Web サイト	「教育実習 64 の質問」寺崎、黒澤、別府監修 学文社
単位修得が望ましい科目	
備考	関連科目：教育実習 II/教育実習 II・III に連動しています。 その他：事後指導は後期に行う場合があります。

# 教育実習 II/教育実習 III Practice Teaching II

担当教員	中村 正巳 (851 研究室), 五浦 哲也 (858 研究室), 椿 達 (854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	実習	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	4 年	集中
先端経営学科		必修	4 年	集中
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	4 年	集中
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	4 年	集中
<b>授業概要</b>				
<p>「教育実習 II」は、平素の専門分野の学習・研究活動及び高等学校の教科「情報」「商業」、中学校・高等学校の「数学」の学習を基に、実際に実習校において実践的な教育活動を体験します。「教育実習 I」と密接に関連した学習です。教育実習のねらいは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何か、体験的に体得する。</li> <li>2. 大学で得た知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学で得られない実践的な教育技術を身につける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>実習期間は、高校の教員免許の取得希望者の場合、2 週間以上、中学校の教員免許の取得希望者の場合、3 週間以上ですが、事前の学校訪問等があり、当該実習校との連携をとりながら準備をし、教育実習の実践を行います。事前の学校訪問の状況について、大学に報告しなければなりません。</p>				
<b>授業の目的</b>				
現実の学校環境における生徒たちとの直接的な接触を通して教育活動の体験を積み、将来教員となるための実践上の能力態度を養う。				
<b>授業計画</b>				
<p>当該実習校での実習期間中に、大学から指導、状況把握、挨拶等をかねて訪問します。できれば指定された「研究授業日」に訪問しますが、他の日になることもあります。</p> <p>具体的には、当該実習校での実習になりますので、そこの教職員の指導を受けることとなります。教員としての立場に立ち、貴重な体験ができる機会です。</p> <p>“見習い先生”として、教師の専門性、学校の組織・運営、指導の在り方や工夫、生徒の生活の様子、心のふれあいの喜び等、終生忘れられない経験が出来ます。なかでも、職務に専念すること、教材研究の重要性、創意工夫の大切さなどを学びますが、これらのことは、どのような職業に就くにしても役立つことです。貴重な体験を得ることになります。</p>				
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
教育実習直前には、模擬授業等を活用して十分な準備をして本番に臨みましょう。実習終了後は実習報告会でその成果を発表しましょう。				
<b>成績評価方法</b>				
<p>□試験： % □小テスト： % ■レポート： % ■演習課題： %</p> <p>■その他 [（教育実習日誌、実習高等学校からの出席簿・評価表。「教育実習 I」と関連させ、総合的に評価します。）]</p>				
教科書	<p>テキスト：○『教育実習の手引』（第 6 版） 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編 学術図書出版社</p> <p>○『教育実習日誌』（第 3 版） 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編 学術図書出版社</p>			
参考書・Web サイト				
単位修得が望ましい科目	教育実習 I			
備考				

# 教育実習 II/教育実習 III

担当教員	中村 正巳 (851 研究室), 五浦 哲也 (858 研究室), 樺 達 (854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	実習	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	4 年	集中
先端経営学科		必修	4 年	集中
<b>授業概要</b>				
<p>「教育実習 II」は、平素の専門分野の学習・研究活動及び高等学校の教科「情報」「商業」、中学校・高等学校の「数学」の学習を基に、実際に実習校において実践的な教育活動を体験します。「教育実習 I」と密接に関連した学習です。教育実習のねらいは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教師という専門職とは何か、体験的に体得する。</li> <li>2. 大学で得た知識・技能を実践上で生かす。</li> <li>3. 大学で得られない実践的な教育技術を身につける。</li> <li>4. 生徒とのふれあいを通して、教育の本質を実感する。</li> <li>5. 教職に関する学習の総まとめとして、研究活動をする。</li> </ol> <p>実習期間は、高校の教員免許の取得希望者の場合、2 週間以上、中学校の教員免許の取得希望者の場合、3 週間以上ですが、事前の学校訪問等があり、当該実習校との連携をとりながら準備をし、教育実習の実践を行います。事前の学校訪問の状況について、大学に報告しなければなりません。</p>				
<b>授業の目的</b>				
現実の学校環境における生徒たちとの直接的な接触を通して教育活動の体験を積み、将来教員となるための実践上の能力態度を養う。				
<b>授業計画</b>				
<p>当該実習校での実習期間中に、大学から指導、状況把握、挨拶等をかねて訪問します。できれば指定された「研究授業日」に訪問しますが、他の日になることもあります。</p> <p>具体的には、当該実習校での実習になりますので、そこでその教職員の指導を受けることとなります。教員としての立場に立ち、貴重な体験ができる機会です。</p> <p>“見習い先生”として、教師の専門性、学校の組織・運営、指導の在り方や工夫、生徒の生活の様子、心のふれあいの喜び等、終生忘れられない経験が出来ます。なかでも、職務に専念すること、教材研究の重要性、創意工夫の大切さなどを学びますが、これらのことは、どのような職業に就くにしても役立つことです。貴重な体験を得ることとなります。</p>				
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
教育実習直前には、模擬授業等を活用して十分な準備をして本番に臨みましょう。実習終了後は実習報告会でその成果を発表しましょう。				
<b>成績評価方法</b>				
<p>□試験： % □小テスト： % ■レポート： % ■演習課題： %</p> <p>■その他 [（教育実習日誌、実習高等学校からの出席簿・評価表。「教育実習 I」と関連させ、総合的に評価します。）]</p>				
教科書	<p>テキスト：○『教育実習の手引』（第 6 版） 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編 学術図書出版社</p> <p>○『教育実習日誌』（第 3 版） 北海道私立大学・短期大学教職課程研究連絡協議会編 学術図書出版社</p>			
参考書・Web サイト				
単位修得が望ましい科目	教育実習 I			
備考				

# 教職実践演習（中・高） Practical Seminar for the Teaching Profession

担当教員	中村 正巳 (851 研究室), 五浦 哲也 (858 研究室), 椿 達 (854 研究室)	単位数	授業形態	ナンバリング
		2 単位	実習	
開講学科		種別	配当年次	開講時期
システム情報学科		必修	4 年	後期
先端経営学科		必修	4 年	後期
情報メディア学科メディアデザイン専攻		必修	4 年	後期
情報メディア学科メディアテクノロジー専攻		必修	4 年	後期
<b>授業概要</b>				
<p>1 本科目は、教員として必要な資質・能力の最終的な形成・修得と本人及び教員による確認を目的とするものであり、教職課程のいわば集大成とでもいうべき科目である。</p> <p>2 上記の目的を果たすために、本科目では、自らの、そして他の学生の教育実習での経験に対するとらえ返しと検討を行ない、それを踏まえた上で、教員の職務や責任、生徒理解・指導と学級経営について集团的に考察するとともに、学習指導にまつわる実践的指導力の向上の実現と今後の課題の析出に努めることとする</p> <p>3 授業展開について（模擬授業等で、教科に関する担当教員にも便宜、指導を仰ぐ場合がある）</p> <p>第 1 回-第 6 回：講義と演習（討論）（担当：中村，椿，五浦）</p> <p>第 7 回-第 13 回：グループ単位で模擬授業と検討会の運営をする。（担当 A グループ：中村，B グループ：椿，C グループ：五浦）</p>				
<b>授業の目的</b>				
<p>教員として求められる資質能力（教員としての責任感や教育的愛情，社会性・対人関係能力，生徒理解・指導や学級経営にまつわる実践的指導力，学習指導にまつわる実践的指導力）のより一層の向上をはかり，教職に関する適性の獲得を目指す</p>				
<b>授業計画</b>				
<p>第 1 回教員の職務（組織運営を含む）・責任に関する講義（全体）</p> <p>第 2 回教員の職務（組織運営を含む）・責任に関する討論（全体）</p> <p>第 3 回生徒理解・指導と学級経営に関する講義（全体）</p> <p>第 4 回生徒理解・指導と学級経営に関する討論（全体）</p> <p>第 5 回教科の指導に関する講義（全体）</p> <p>第 6 回教科の指導に関する討論（全体）</p> <p>第 7 回模擬授業の実演と検討会 1（グループ別）</p>		<p>第 8 回模擬授業の実演と検討会 2（グループ別）</p> <p>第 9 回模擬授業の実演と検討会 3（グループ別）</p> <p>第 10 回 模擬授業の実演と検討会 4（グループ別）</p> <p>第 11 回 模擬授業の実演と検討会 5（グループ別）</p> <p>第 12 回 模擬授業の実演と検討会 6（グループ別）</p> <p>第 13 回 模擬授業の実演と検討会 7（グループ別）</p> <p>第 14 回 外部講師の講話</p> <p>第 15 回 まとめ（グループ別）</p>		
<b>準備学習（予習・復習）</b>				
<p>毎回の授業テーマごとに、教育実習実習日誌やレポートで、教育実習の体験を振り返りましょう。教育実習の研究授業等の指導案を見直し、模擬授業に備えましょう。</p>				
<b>成績評価方法</b>				
<p>□試験： % □小テスト： % □レポート： % □演習課題： %</p> <p>■その他 100%[討論への参加の状況，模擬授業の実演状況をもとに総合的に評価する]</p>				
<b>教科書</b>				
<b>参考書・Web サイト</b>				
<b>単位修得が望ましい科目</b>				
<b>備考</b>				